国立国語研究所学術情報リポジトリ

岐阜県不破郡垂井町岩手方言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003024

方言録音資料シリーズ－4

岐阜県不破郡垂井町岩手方言

奥　村　三　雄　編

1968

このテキストは，総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」（代表者 大石初太郎）の一部として，研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法，方言の表記の方法などのあらましについては，別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所　話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは，岐阜大学助教授 奥村三雄 が担当した。

もくじ

収集地点とその方言について …… 2
表記について …… 3
本文
(1) 世間話 …… 4
(イ) 補聴器のこと …… 4
(ロ) ものもらいのこと …… 8
(2) 忙しい農村女性の一年 …… 11
(イ) 一年の行事 …… 12
(ロ) 経済的な面その他 …… 43
(3) 戦争中の思い出 …… 52
(イ) 空襲のこと …… 52
(ロ) 食糧事情のこと …… 59
(4) 天災の思い出 …… 68
(イ) 地震のこと …… 68
(ロ) 雷・火事のこと …… 71
(ハ) 日照りのこと …… 75
(ニ) 台風のこと …… 85
(附) 米審査のこと …… 86

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：岐阜県不破郡垂井町岩手漆原（旧岩手村漆原）

2. 収録地点の概観

純粋の農村。垂井町全体の性格は別として，旧岩手村内は，殆んど農業といえる。旧岩手村の中に，竹中半兵衛関係の旧跡があり，関ケ原関係の史蹟あり。東海道線垂井駅からバス１０分弱，東海道線新垂井駅から徒歩で１０分余り。

3. 収録した方言の特色

○もともと，美濃方言は，東日本方言と西日本方言の緩衝地帯とみなされるが，その中でも，西美濃垂井町・関ケ原町（不破郡西部）地方は，その性格が最も濃厚である。

○アクセント（特に一・二拍名詞）の面におけるその性格は，早くから注目されていて，垂井式アクセントの名称さへ通用している状態であるが，その他の面でも，やはり，緩衝地帯的性格が顕著である。

この文字化資料中でも，・ハ行五段動詞連用形におけるウ音便（飼オタ）と促音便（飼ツタ）の混用，・一拍名詞長音化傾向等，いろんな現象が認められる。

○従来《ａｉ連母音の変化しない》という事が，この地方の特色（東美濃・中美濃に対し）とされていたが，実際にはこの資料中かなり頻繁に変化形が認められ，将来の研究テーマとなりそうである。

4. 地点選定の理由

担当範囲は東海地方及び近畿地方と考えられるが，さし当ってその両勢力の接触地帯が注目される。その接触地帯としては，美濃西部と，近江東部の両者が挙げられる。その中，アクセント等の性格からかんがみて垂井町方言が最も興味深い様である。

表 記 に つ い て

〔指定の字母以外に使用した字母，および使用した補助記号〕

字母・補助記号の種類	語例と意味	(標準語訳)
æ	dæ：te (p.6)	(出して)
	mæ：ru (p.7)	(参る)

(1) 表記は大体，「方言の表記について」(国研1966−10−20)に従った。

(2) 分ち書きは，大体，文節(orそれに準ずるもの)単位とした。
但し音声変化や意味の慣用性その他の関係で，所謂文節論的に二単位のものを，一単位としてとり扱った場合がある。例えば

例えば，{ ㋑……toju：(と言う)が，……cju：の如く融合した様な場合 / ㋺……kasira (…が知らん)が，一語の終助詞の如くなっている様な場合 } 等

(1) 世間話

録音日時　1967年3月3日
録音場所　垂井町岩手漆原
浅野ふみえ氏宅

話し手

(略号)	(氏　名)	(性別)	(生　年)	(職業)	(居　住　歴)
K	児玉きぬえ	女	明治32年生	農業	大垣市字柠(0～18)，垂井町岩手漆原(18～)
A	浅野ふじえ	〃	〃 26年生	〃	垂井町府中市尾(0～18)，垂井町岩手漆原(18～)

解説：この録音に当り，主に質問してもらう予定だった人(浅野ふみえ氏＝土地の人)が到着しない間，自由に話してもらったもの。
㋑補聴器を，浅野氏が使用しているので，それについて(p.5～p.8)
㋺児玉氏の家族の人の目疣(ものもらい)の事　(p.8～p.11)

㋑ 補聴器のこと

K watasira ano terebide jaqtemo terebi komako:
私等は　あの，テレビで　やっても，　テレビが　細かく

ucuqto baqcja hame:temi:ja hamete mi:ja
映ると　「ばあさん，はめてみなさい，　はめて　みなさい」

cude hamete mitemo wa: cjoqtomo kikoeheNwa
というから，はめて　みても　ワー，　少しも　聞えないよ

〈A omahaNta ko:taNka〉 kawaheNkedona terebi-
あなた達　買ったのか？　買わないけれどね。　テレビ

dena ci:sai koede suqto kikoeheNjaro uNde
でね，　小さい　声で　楽には　聞えないでしょう。　それで，

soicuona: hamete mi:ja cude 〔笑〕 cjoqtomo
そいつをねー，　「はめて　みなさい」と言うから。　少しも

kikoeheN
聞えない。

A jaqpa korena: ma: se: dæ:te hamecukena
やはり これねー, まあ, 精を 出して はめつけなければ

akaNŋenawa 〈K so:jarona〉 tameaŋejo:dena:
だめだそうだよ。 そうでしょうね 玉の上げようでねー,

wa:Nto ju:dena
ワーンと いうでね。

K huN jaqpa watasirademo ano terebino jacu
フン, やはり 私等でも あの, テレビの イヤホーンを

hamete mitemo wa:qte cjoqtomo kikoe:heNŋana
はめて みても ワーッといって 少しも 聞えないがね。

A koqciwa kanacuNbozjaro 〈K uN〉 hoNto ju:to
こちらは まるでつんぼでしょう。 ウン 本当を 言うと

cuNbono ho:e kakena akaNwana: 〈K hoNna〉
つんぼの 方の耳へ かけなければ だめだよねー。 本当にね

kikoeru ho:e kakena: cuNbono ho:e kakeruto
聞える 方の耳へ かけなければ, つんぼの 方の耳へ かけると

naNnimo
何も。

K naNnimo kikoe:heNjarona atasimo koqciŋa
何も 聞えないでしようね。 私も こちらが

kikoe:heN
聞えない。

A naNnimo kikoe:heN cutaesaNnojo:ni icumo
何も 聞えない。 つたえさんの様に いつも

kamo kakicuketorutona 〈K uN〉 zjuNŋa wakaru
かも かけつけているとね, ウン 調節方法が わかる。

〈K wakarude〉 tamani po:Nto kakeruNnara
わかるから たまに ポーと かけると

wakaraheN 〈K wakaraheN〉 icumo kamo hikidasini
わからない。 わからない いつも かも 引き出しに

hoke:teara 〔笑〕
放ってある。

K icumo kamo hora kaketorana akaNjaro 〈A ka−
いつも かも, それは, かけていなければ だめでしょう か

ketorutona:〉 kawarano joqsaN ano tera ome:−
けているとねー 川原の よしさんは, あの 寺へ お参

risitarana: taNni hoqtara soicu icumo kamo
りしたらねー, 谷へ, そしたら それを いつも かも

hokode oite kokode cjo:secusitaruNjade
そこに 置いて, 「ここで 調節してあるんだから

kaketoruto e:kedo kaketoraNto akaN ciqte
かけていると よいけれど かけていないと だめだ」 と言って。

A ho:zja ho:zja kakecukeNnaraN okju:saN kona:−
そうだ, そうだ, かけつけなければいけない。 おきゅうさんは, この

ni icumo kamo oterasaNe mæ:ruto kakete go−
頃 いつも かも お寺さんへ 参ると かけて い

zaru 〈K hu:N〉 so:ja kakecukena akaN ni
られる。 フーン そうだ, かけつけなければ いけない。

K kakecukena akaN icumo kamo jaqpa kakecukeru−
かけつけなければ だめだ, いつも かも。 やはり かけつける

to ano: terebino jacudemo ho:jamo cjoqtomo
と, あのー, テレビの イヤホーンでも 同じだもの。 少しも,

hoNnamoN kaketaqte tamani kaketaqte kikoe−
そんなもの, かけてみても…… たまに かけても 聞え

heNmo
ないもの。

A so:zjaro huN kakecukena akaNwa soreni: jaq−
そうでしょう, フン, かけつけなければ だめだよ。 それに やは

pa zjamazjasina mimi omoiwa 〈K omoijaro〉
り, 邪魔だしね, 耳が 重いよ。 重いでしょう

soNdakeno kotoŋana
それだけの 事がね。

K meŋanedemo kakecuketoruto ciŋau 〔戸の音〕
眼鏡でも かけつけていると 違う

〈K ciŋau〉 meŋanedemo icumo kamo kaketoruto
〈K 違う〉 眼鏡でも いつも かも かけていると

meŋa ra:kunajo:na kiN surukedona: meŋane
目が 楽な様な 気が するけれどねー, 眼鏡を

kakeNto siŋoto ano: naNzo cjoboqto sjo:to
かけないと, 仕事, あのー, 何か 少し しようと

omouto ciqtomo mie:heNni 〔笑〕
思うと 少しも 見えない。

A hoqtena: naNzja sjaN ko:ju: huci daruiwa
そしてねー, 何か しら, こういう様に 目の縁が だるいよ。

〈K hoja daruiwa〉 hoNdemo kakena mici aruke—
〈K そうだ, だるいよ〉 それでも かけないと 道を 歩け

Nsina 〈K jaqpa kakecuketorutona〉 uN kake
ないしね。〈K やはり, かけつけているとね〉 ウン, かけ……

cukaerujo:na moNde zido:sja menomae kurujo:—
つかえる様な もので, 自動車が 目の前へ 来る様

na 〈K uN〉 naNdemo kuseno moNjawana
な… 〈K ウン〉 何でも くせの ものだよね。

K kuseno moNjawana:
くせの ものだよねー。

(ロ) ものもらいのこと

A akiesaN ciqto me jo: naqtakæ:na
あきえさん 少しは 目が よく なったかね?

K uN dæ:bu hare hi:tani
ウン, 大分 はれが ひいたよ。

A huNnara iciNcino koqte kiNno iciNcijaro
それなら 一日の 事で, 昨日 一日でしょう?

otocui iqtade,
一昨日 行ったんだから。

K uN dæ:bu hare hi:tena: kjo:mo mo: kakeNto
ウン, 大分 はれが ひいてねー, 今日も 「もう 眼帯をかけないで

okoka sjaN iqte gozaqtaNjate hoNdemo mata
おこうか しらん」 と言って いられたんだよ。 それでも 又

kaze huitari bæ:kiN hæ:ruto akaNdeqte mata
「風が 吹いたりして ばいきんが 入ると いけないから」と言って 又

ima kakecuketena: gaqko:de koNna moN kaketo-
今 かけつけていてねー。 「学校で, こんな ものを かけて

qto gaqko:de dareN detorujara ciqtomo mie-
いると, 学校で 誰が 出ているのやら 少しも 見え

heN 〔笑〕 majumi detoqtakaqte ciqtomo miheN
ない」… 「マユミが 出ていても 少しも 見えない」

teqte gozaqta nara gaqko:de hazuitorja:
と言って いられた。 「それなら 学校で 外していれば

e:ŋanaq tete
いいがね」 と言って,

A huN ho:zja
フン, そうだね。

K mici arukuno jaqpa kaze ataqtarinaNka suru-
道を 歩くのは, やはり 風が あたったりなんか する

tona:
とねー。

A akaN akaN akaNte icidona hokori hæ:qtena:
だめ, だめ, だめだって。 一度ね, ほこりが 入ってねー,

bæ:kiN hæ:qte 〈K bæ:kiN hæ:qte〉 o:so:do:zja
ばいきんが 入って ばいきんが 入って 大さわぎだよ。

K konoŋoroa hokoriqpoidena: huNde watasi so:-
この頃は ほこりっぽいからねー, それで 私は そう

iqte muko:de hazuitorja e:ŋana: cju:toruNzja
言って 「むこうで はずしとれば いいがね」 と言っているんだよ。

A uN huNde miNbo uNdaNka
ウン, それで めいぼは うんだの?

K ho:ja meNbo uNdajana: uNde uNdanomo uNdaja-
そうだ, めいぼが うんだんだよねー。 うんで, うんだのも うんだら

rokedo monosuŋo: iqko naqtoqtajana: iqko
しいけれど ものすごく 大きく なっていたんだよねー。 大きく

naqtemo neqkara uNdorahenaNda de:te umiŋa
なっても それほどは うんでいなかった。 大体 うみが

de:heNnaNda mo: soNna oqki: moN naqtara
出なかった。 「もう そんなに 大きい ものに なったら

deNnaraNnonina: iqte umiŋa denaNdajaro
出なければならないのにねー」 と言って… うみが 出なかったでしょう,

huNde oisja
それで お医者へ。

A de soNnade koNna toko cukasitaNka
で, それで, この 辺を 突きなさったの?

K so:rasi:ŋana cju:sjabarimite:na moNjana
そうらしいがな, 注射針の様な ものだね。

A mo ne:nukisa: seja e:wa
もう 根ぬきさえ すれば いいよ。

K ho:ja nenukisae seja e:wa dokora kubino
そうだ, 根ぬきさえ すれば いいよ。 どの辺かと言うと「首の

kokono jacuŋa itæ:toka naNtoka
ここの やつが いたい」とか 何とか。

A mata soko soko
又 そこ そこ?

K uN 〔笑〕 aqcja: kuŋuri kocja: kuŋuri sita
ウン, あちらが 悪くなり こちらが 悪くなり した。

A ne: nuketoraNde
根が ぬけていないから。

K ne: nuketoraNde iqkura ge:sjusaN cju:sja
根が ぬけていないから, いくら ゲンシュウさん(医者の名)に 注射を

uqte maqtakate cjoqtomo akaheN
うって もらっても, 少しも 治らない。

A ozjo:zu jo: iwaNde 〈K ho:ja〉 ho:ja ate:N-
お上手は うまく 言えないから 〈 そうだ 〉 そうだ, 私達

taqteqte sjaberu 〈K hoNtoja〉 〔笑〕 tamani
でも しゃべる…… 〈 本当だ 〉 たまに

josono ume: koto ju: sitono mane sitakate
よその 上手に 話す 人°の まねを したって

cu:roku site ikaheNde 〈K cu:roku site ika-
つりあって いかないから 〈 つりあって いか

heN〉 akaheNwana: mukasikara nareta moNna:
ない〉 だめだよねー, 昔から 慣れた ものねー,

kotobano ho:ɸa e:wa na:
言葉の 方が いいよねー。

K moqte kite hecuketajo:na moNde 〈A akaheN〉
持って きて くっつけた様な ので, 〈 いけない 〉

〔笑〕

A nakanaka keqte koNɸa mieruzjarokana 〈K uN〉
なかなか 帰って こないが (お客さんは)来られるだろうかね。 〈 ウン 〉

ziteNsjanara mo: keqte koNnaNna:
自転車なら もう 帰って こなければならないよねー。

(2) 忙しい農村女性の一年

録音日時 1967年3月3日
録音場所 垂井町岩手漆原
浅野ふみ江氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
K	児玉きぬえ	女	明治32年生	農業	大垣市字庁(0～18) 垂井町岩手漆原(18～)
A	浅野ふじえ	女	〃 26年生	〃	垂井町府中村市尾(0～18) 垂井町岩手漆原(18～)

M　浅野ふみえ　女　昭和21年生　大学生　垂井町岩手漆原(0～)

解説：昔はつらい仕事が多かった。
特に養蚕の仕事をはじめとして，一年中，次々と仕事が追っかけてくる。経済的な面から考えても，よくあれでやってこられたと思う。

(イ) 一年の行事

A　iciŋecukarano　kotoo　zu:to　omahaN　okæ:ko
　　一月からの　事を　ずうっと，　あなた，　お蚕が

　　aŋarumadeno　koto　ija:　e:wana:　〈M　hu:N　i:jo
　　あがるまでの　事を　言えば　いいよねー。　〈　フーン，　いいよ，

　　sorede〉　soNde　simæ:zjana
　　それで。〉　それで　終りですね。

M　sore　hoNnara　hanasiteto
　　それを，　それでは　話して下さいと。

A　honara　iciŋecuwa　ma:　naNzjana　boqkocuŋina
　　それでは，　一月は　まあ　何だね，　ボロつぎね，

　　sabuidena　〈M　huN　huN〉　boqkocuŋi　sitanaqte
　　寒いからね，　〈　フン　フン〉　ボロつぎを　したねって。

　　niŋacuna　hazimeka　nakaŋoromade　græ:　suruwa－
　　二月はね，　始めから　半ば頃まで　位　するよ

　　na　〈K　hojana〉　sorekara　ta:raŋosirae:　suruN－
　　ね。〈　そうだよね〉　それから　俵ごしらえを　するん

　　zjaNna
　　だよね。

K　ma:　naNzjawana:　watasira　ano　hataori
　　まあ　何だよねー，　私らは　あの　機織り。

A　kono　sitoNtawa　naNzja　tawaraŋosirae　waqciN－
　　この　人達は　何だよ，　俵ごしらえ。　私達

　　ta:　joqsaridemona:　nawa　naNzjana　hosonawa
　　は　夜でもねー，　縄。　何だね，　細縄，

niwacucu nawa sitemawaN kotoniwa 〈K nerare−
二把ずつ 縛を 作ってしまわない 事には ねられ

henaNdade〉 nerarejahenaNda niwacucu no:to
なかったよ ねられなかった。 二把ずつ なうと,

hotena: mata tawara aNda 〈K ho:zja〉 hote
そしてねー, 又 俵を 編んだ。 そうだ そして,

sono æ:daniwa oteNki i:to hataorizjanaNja
その 間には お元気が いいと 機織りや何かを。

K hataorimo siNnaNsina: hatakeemo ikaNnaNsi
機織りも せねばならないしねー, 畑へも 行かなければならないし。

A hotekara sono æ:dani mata jaNme: ki noha
それから, その 間に 又 山へ 木の葉を

kakini ikaNnaNsina:
かきに 行かなければならないしねー。

K jame: kinoha kakini hasiraNnaraN
山へ 木の葉を かきに 走って行かなければならない。

A hotekara maNda naNzjana koNdo omahaN jaqte−
それから, まだ 何だね, 今度は あなたが 言って下さ

na: ma: komecukimo siNnaraN
いよねー。まあ, 米つきも しなければならない。

K komecuki 〔笑〕
米つき。

M ho: komecuki
ホー, 米つき?

K mukasiwana: aside huNdaNdeqsjaro koNna græ:−
昔はねー, 足で 踏んだんでしょう。 こんな 位

no isiusunina ano nokibani aqtena sosite
の 石臼にね, あの 軒場に あってね, そして,

aside toNko tonkoto huNdaNdesuwa nito:baka−
足で トンコ トンコと 踏んだんですよ。 二斗ばか

cucuna 〈M hu:N〉 huN so: jaqte okome cuitaN−
りずつね。 フーン そう して, お米を ついたん

desuN
ですよ。

A hoqte kaNzukiqcju:tena:
そして, 寒づきと言ってねー。

K ho:zja: kaNno ucinina cjoboqtozucu cuite
そうだ, 寒の うちにね, 少しずつ ついて,

nacuuci taberunonine 〈M hu:N〉 so: jaqte
夏の間に 食べるのにね。 〈フーン〉 そう やって

cuitaN Nde mo: watasira kodomo o:kaqtade
ついたの。 それで もう, 私等は 子供が 多かったので,

kono sitoNta:wa kodomo sukenakaqtade joro-
この 人達は 子供が 少なかったので よろ

sikaqtakedona: harisiNgotomo seNnaranaNdadesu-
しかったけれどねー。 針仕事も しなければなりません

si
し。

A imano jo:ni cjoqtomona: nuikajasu cju: koto
今の 様に, 少しもねー, 縫いかえす という 事は

araheNnaNda
なかった。

K imawa hima æ:te jorosi:kedona hukubaqkadesu-
今は 暇が あいて よろしいけれどね, 服ばかりですか

de
ら。

A Nna kodomo gaqko kucu hæ:te jukujona mono
そんな, 子供が 学校へ 靴を はいて 行く様な ものは

mita koto araheN
見た 事が ない。

K mita koto araheN
見た 事が ない。

M nani haiteqtano
何を はいて行ったの?

K A) z o : r i j a
草履ですよ。

K e N s o k u m a e j a t o s e : ŋ a n a m a e : b a N z o : r i c u k u r i
遠足前だとね, 毎晩 草履作りを

s i t a a s i t a w a e N s o k u j a t e q t e
した。 明日は 遠足だと いって。

A a : N k a m i c u k e z o : r i o n a
アー, 紙まき草履をね。

K k a m i c u k e z o : r i d e n a z o : r i c u k u q t a N d e s u h o q t e
紙まき草履でね, 草履を 作ったんです。 そして,

A h o t e o b e N t o : w a h u r u s i k i d e
そして, おべんとうは ふろしきで。

K h u q h u h u r u s i k i k o : j u : n i j o k o n i o i n e t e
フッフ, ふろしきで この 様に 横に 背負って。

A z a q t o o i n e N h o s i t e m i N n a a r u i t e n a : z o : r i
ざっと 背負い, そして, 皆 歩いてねー, 草履の

c u m a k a n a N n i a t o ŋ a k e s i t e h o t e i q t a g a q k o : e
後にひもを つけて, そして 行った, 学校へ

i q t a N z j a w a n a
行ったんだよね。

K m u k a s i w a n a : h o N t o n i i m a j u : t o s æ : ŋ a m i n a
昔はね, 本当に, 今 言うと 皆

w a r a j a : s u k u r e : j a 〔笑〕
笑いなさる 位でしょう。

A m o : s i ŋ a c u i q p e : n i h a t a o r u w a n a
もう 四月 一ぱいは 機を 織るよね。

K N s a i z j a m o : s i ŋ a c u n i w a 〈A s i m o : t e m a u〉
ン, そうだ。 もう 四月には, 終って しまう

s i m a q t e m a u
終って しまう。

A u N s i m o t e m a u h o r e k a r a o m a c u r i k u r u z j a r o
ウン, 終って しまう。それから お祭が くるでしょう。

〈M huN フン〉 omacuri kuqto mata sorekara oke:ko-
お祭が くると, 又 それから お蚕

saNno jo:wai suru oke:kosaNno ami aNdarina:
さんの 用意を する。 お蚕さんの 網を 編んだりねー,

naniNkaja suruNzjawana zuqto i:no ami ciqto
何やかや するんだよね, ずっと。 イイの 網。 ちょっと

icinomijae iqte ko:te kuru
一宮市へ 行って 買って くる。

K u:N i:wa kaqte kitewana: ucide aNdajana:
ウーン, イイは 買って きてはねー, 家で あんだよねー,

i:no amino·
イイの 網の……

M i: i:qte nani i: hu:N
イイ, イイって 何? イイ, フーン。

K i:to ju:tena ko:ju: tatamino omoteni suru
イイと 言ってね, こういう 畳の 表に する

jo:na moNjawana
様な ものだよね。

M i: hu:N soremo aNdaN
イイ, フーン, それも 編んだの?

K uN ami aNdano sorena oke:kosaNni kakeru
ウン, 網を あんだの。 それね, お蚕さんに かける

amina
網ね。

A jonabeni saNme:cucu aNdajana
夜なべに 三枚ずつ あんだんだよね。

M de icu deruno kaiko
それで, 何時 出るの? 蚕

K ke:kowa goŋacu
蚕は 五月。

M goŋacu
五月?

A goŋacu joqkato icuka 〈K joqkaka icuka〉
五月の 四日と 五日。 四日か 五日

K tæ:ŋe: mijasiromacurijaqtawana uN
大てい 宮代祭の頃だったよね, ウン。

M goŋacu icukaŋorojane
五月の 五日頃ですね?

A horekara cisaaNdena mina iqsjoni 〈K iqsjoni
それから 皆 ―しょに, ―しょに

miNnana〉 sitotokode ko:te hotekara goŋacu
皆ね ―所で 飼って それから 五月

zju:gonicini wakeruNzjana
十五日に 分けるんだよね。

K tæ:ŋe: soNna jo:na moNjawana zju:goNci
大体 そんな 様な ものだよね, 十五日,

o:ŋakimacuri zibuNni icudemo wakeru 〈M wa―
大垣祭の 頃に, いつでも 分ける。 わ

keru〉 miNnaNna kaqtadake naNguramu teqte
ける? 皆ね。 飼っただけを, 何グラム といって,

mukasiwa guramuja nakaqtakedona:
昔は グラムでは なかったけれどねー。

M de wakete moqte kaeqte iede koNdo jaruno
それで分けて 持って 帰って, 家で 今度は 餌をやるの?

K uN hote ucide kauno
ウン, そして, 家で 飼うの。

A horekara kjo:so:tekizjaŋana me:ke: me:me:
それからは 競争的だがね。 毎回 めいめい

naNguramude kjo:so:tekide hote tokuho:zi
何グラムで, 競争的にして, そして, トクホー寺……

M nani kjo:so:teki
何, 競争的?

K miNna jaqpa ano otaŋe:nina: cjoboqtodemo
皆, やはり あの, お互いにねー, 少しでも

josotowa joke: toro:to omoqte 〔笑〕
よそよりは 多く とろうと 思って。

A kibaqte jaruNzjawa sono me:ŋa tokuho:zimade
がんばって やるんだよ。 その まゆが, トクホー寺まで

moqte kaNnaraNdena 〈K e: ho:zja〉 uNde roku-
持って 行かねばならないのでね。 〈エー, そうだよ〉 それで, 六

ŋacuno goŋacuni dete rokuŋacuno cukihazima-
月の, 五月に 出て 六月の 月始ま

rini zjo:riku suruNzjawana aŋarude sono
りに 蚕があがるんだよね。 あがるので, その

æ:damo jore:niwa oki sitena: naNzjana: miq-
間も 四つ寝して 起きてねー, 何だねー, 三

ka mibaN otokoni cjoqtomo sawaqte ma:heNke-
日 三晩, 男には 少しも さわって もらわないけ

dona joqkame:kara otokoni ciqtobakacucu
れどね, 四日めから 男の人に 少し位ずつ

sawaqte morote kuwademo toqte mauNja sore-
さわって もらって, 桑でも とって もらうんだよ。 それ

madewa onaŋo sitoride jarikuru:Njawana:
までは 女 だけで やりくりするんだよねー。

jonabenja: honamono kuwatoribaqka
夜なべには, そんなもの, 桑とりばかり。

K mukasiwa josari kuwasetaNjadena: watasira
昔は 夜に 食わせたんだからねー, 私等は

zju:nizijori hajo: neta koto arahen
十二時より 早く 寝た 事が ない。

A neta koto arahen
寝た 事が ない。

M naNde onnabaqka jaruno otoko kawaqte morau
どうして 女ばかりで やるの? 男に 代わって もらう?

A otokowa taNbo seNnaraN 〈K taNbo seNnaraN〉
男は 田の仕事を せねばならない。 〈田んぼの仕事を しなければならない〉

M a: taNbo seNnaraNde
アー，田んぼ仕事を　しなければならないから？

K jame:mo ikanaraNsina 〈M isoŋasi:〉 huNde
山へも　行かなければならないしね。　忙しい？　それで

oNnabaqkasi naNŋi sitaNja 〔笑〕〈M naNŋi si-
女ばかりが　難儀を　したんだよ。　難儀を　し

tano hu:N〉
たの？　フーン

A imawa terebi mitoqte zju:nizimade
今は　テレビを　見ていて　十二時まで。

M hode kaikono kurusi: siŋotoqtenowane: doNna
それで，　蚕の　苦しい　仕事というのはねー，　どんな

koto
事？

K kaiko:kaqtoqte 〈M eraisiŋotoqte〉 ere:cjuno-
蚕を　飼っていて　つらい　仕事というのは？　つらいというの

wa ma: ano joqcune:kara okitekarajawana
は　マー，　あの　四つ寝から　起きて以後だよね。

okitekara miqkabaka taqtekaraŋa kuizakarini
起きてから　三日ばかり　たってから後が　食いざかりに

naqte kurudena 〈M huN〉 huNto sorekaraŋa
なって　くるからね，　フン　すると，　それからが

ere:wana cjoqto omo: narusi 〈M kaikoŋa nani〉
つらいよね。　少し　重く　なるし　蚕が？　何？

o:ki narudena
大きく　なるからね。

M o:ki naruno 〈K omœ:no〉
大きく　なるの？　重いのだよ

A icire: nire: saNre: jore:tona sihenN nete
一れい　二れい　三れい　四れいとね，　四回　寝て

okisaqseruzjaro sorekara miqkamemade gre:wa
蚕が起き（られ）るでしょう。　それから　三日めまで　位は

onaŋode jareruzjaro kuwademo toreru mo:
女で やれるでしょう。 桑でも とれる。 もう

joqkamekarawana: honNna onaŋo sitoridewa
四日めからわねー, そんな 女 だけでは

mawarehenNwa kuwao curikomaNnaraNdena: gjo:ー
手がまわらないよ。 桑を つりこまねばならないからねー, たく

saNto
さんに。

M omotaide 〈A uN〉 eraideka
重いから? 〈ウン〉 疲れるからか?

K omote:no
重いの。

M omotaino kuwaŋa
重いの? 桑が,

K kuwawa e:kedona 〈A gjo:saNjade〉 ke:koŋa
桑は よいけれどね。 〈たくさんだから〉 蚕が

omotai
重い。

M huN huN kaikoŋa omotaino
フン フン 蚕が 重いの?

K iqko narudena sokoe kuwao kuwaserudeqsjaro
大きく なるからね。 そこへ 桑を 食わせるでしょう,

doNto gjo:saNna
うんと たくさんね。

M a: so:suruto omotaide aŋerarehenno
アー, そうすると, 重いから 上げられないの?

K so:so: huNde jaqpa otokono sitoni ciqtocucu
そうそう, それで やはり 男の 人に 少しずつ

teqtaqte moraqtena
手伝って もらってね。

M kuwane ano: edanari moqte kuruno haqpadake
桑はね, アノー, 枝なりで もって くるの? 葉っぱだけ

toqte kuruno
とって くるの?

K uN edanari moqte haruwana edanari kirikoN—
ウン, 枝なりで 持ってくる。春はね, 枝なり 切りこん

deja na
でだね。

M haruwa edanari
春は 枝なり?

K hu:N ucide 〈M iede toruno〉
フーン, 家で…… 家で とるの?

A jonabeni toruNde akuruhi iciNci kuwaserudake
夜なべに 取るんだから, あくる日 一日中 食わせるだけ

zeNbu toru
全部 取る。

M akuruhino buNmo hu:N
あくる日の 分も, フーン。

A oteNkidemo waruitona: naN: hoqte tæ:te:
お天気でも 悪いとねー, なに, そして, 大てい

rokuŋacu miqkaŋoroni aŋaruna: nanuka taqto
六月 三日頃に あがるねー, 七日 たつと

aŋaruna: sono mæ:o omæ:saN naNzjana kjo:do:—
あがるねー, その まゆを, あなた, 何だね, 協同

zjade iwademura zeNbu kjo:do:zjadena huNde
だから, 岩手村 全部 協同だから, それで,

oma: tokuho:zi moqte joruNzja hoto iqto:
あなた, トクホー寺へ 持って よるんです。 そうすると, 一等

nito: saNdo:to mæ:ni: cukuNzjawa hosuto
二等 三等と, まゆに つくんだよ。 そうすると,

hoNde miNna iqsjo:keNme:de mo:
それで 皆 一所懸命で, もう。

M a: to:ŋa cukuno maju majuno zjo:to:kara
アー, 等級が つくの? まゆ, まゆの 上等から,

A aNmari warui jaqcjato koqcino ho:no i:
余り 悪い ものだと, こちらの 方の…… よい

mæ:zjato korewana i:toko iqcjuqte hoqte
まゆだと 之はね, よい所へと いって。 そして,

o:ze: joqtena hoqte jakuniNsaN o:ze: goza-
多勢 集まってね, そして 役人さんが 多勢 居られ

rude sokoe moqteqte hoite
るから, そこへ 持って行って, そして,

K hoite miNna joraqsuqdeqsjaro dæ:no ue dæ:to
そして, 皆 より分けられるでしょう。 台の 上に ダーッと

aketene: joraqsurude hoNde soNna joqte mau-
あけてねー, より分けられるから, それで, その様に より分けて もら

tose:ŋa miNna muko:no moN naqte mauNdesuwa
うと, 皆 向こうの ものに なって しまうんですよ。

huNde jaqpa ucide omoikiri seNbecu site
それで, やはり 家で 充分 選別 して

kuNdesuwana 〈A so: jaqte kæ:kokæ: sitena〉
行くんですよね。 そう やって 蚕飼いを してね,

M huNde waruinowa zibuNdoko oitokuno
それで, 悪いのは 自分の所へ おいておくの?

K he: so:so: zibuNdokoe muko:e moqte kute:
はい, そうそう, 自分の所へ。 向こうへ 持って 行くと

jorarerutose:ŋa miNna muko:no moN naqte
より分けられると, 皆 むこうの ものに なって

mauN
しまうの。

M honara sono warui jacuwa do: suruno muko:e
それでは, その 悪い ものは どう するの? むこうへ

torarerudesjo: warui jacuwa hoNde sorewa
とられるでしょう, 悪い ものは。 それで それは

do: saqsuruno muko:no sitowa
どう されるの? むこうの 人は,

K h o r a　m u k o : n o　s i t o　j a q p a　u r a q s u r u N d e q s j a r o m e : −
それは，　むこうの　人が，　やはり　売られるんでしょう

k a
か。

A i q p e :　n o m u　j a c u n i　〔笑〕　a k a　s o r e ŋ a　a k a z j a d e
一ぱい　お酒をのむ のに。　もうけ，それが　もうけだから。

〈M h u : N
フーン〉

A h o q t e　u c i d e　k u z u mæ : w a　m i N n a　i t o　t o q t e　m a q −
それで，　家で　屑まゆは　皆　糸を　とって　しまっ

t e n a :　h o N d e　u c i d e　d o N d o N　d o N d o N　k i n u b a t a
てねー，　それで，　家で　どんどん　どんどん　絹機を

k o sæ : r u
作る。

M s o :　j u :　m o n o d e　h a t a　o r u n o　s o : j u :　w a r u i
そう　いう　もので　機を　おるの？　そういう　悪い

j a c u d e
もので，

A i t o　t o q t e　N d e　m u k a s i n o　s i t o w a　m i n a　k i n u b a t a o
糸を　とって。　それで　昔の　人は　皆　絹機を

j o : k e　m o q t o r u j a r o　i m a n o　s i t o w a　m i n a　k e : m o N −
たくさん　持っているでしょう。　今の　人は　皆　買い物

b a q k a z j a　k e : k o　k a q t e　h u N d e　m i n a　m o :　o k e : k o −
ばかりだ。　蚕を　飼って，　それで，　皆　もう　お蚕

o n a :　g o ŋ a c u　z j u : g o n i c i　w a k e t e n o :　k j o : s o : −
をね，　五月の　十五日に　分けてねー，　競争

z j a w a n a　i :　m e k a t a　t o q t e　i :　mæ :　t o r a N n a z j a d e
だよね。　たくさん　目方を　とって，　よい　まゆを　とらなければならないから。

t o k u h o : z i　i k u t o　n a N b j a q k a N t e　o k u N z j a r o　s o N −
徳法寺へ　行くと，　何百貫と　置くんでしょう。　そん

n a N　n a k a d e n a :　n a r u d a k e　m u k e : n o　h o : n i　b u c j a −
な　中でねー，　なるべく，　向いの　方に　開けら

keraruto ahokuse:〔笑〕huNde miNna kjo:so:
れると ばからしい。 それで 皆 競争,

iqsjokeNme:de jaruNzjawa so: jaqte ke:ko
一所懸命で やるんだよ。 そう やって 蚕を

kaqte kita hoNde icineNni saNkæ:kara sikæ:
飼って きた。 それで, 一年に 三回から 四回

kauzjana
飼うんだよね。

K saNkæ:kara sikæ:na
三回から 四回ね。

M imanowa haru haruno
今のは 春, 春の?

K huN imanowa haru soN cuŋi na:cukonina 〈M
フン, 今のは 春。 その 次は 夏蚕にね,

nacu〉 huN horekara dojo:ko kaqte sono cuŋi
夏? 〉 フン, それから 土用蚕を 飼って, その 次に

sju:ko kaqte baNsju:ni naqte
秋蚕 飼って 晩秋蚕に なって。

M hoNde gokai gokai kauno icineNni
それで 五回? 五回 飼うの? 一年に,

A Ndakeno æ:da na:NŋI sitena: koNnaraN goke:—
それだけの 間 難儀 してね, こねばならない。 五回

meno jacuwa tæ:te: onaŋo morauNzjawa〔笑〕
めの ものは 大てい 女が もらうんだよ。

M ano kuzumoNte iee oite aruNjaro kuzuno ano
あの 屑まゆというのは 家に 置いて あるのでしょう, 屑の あの

maju hoNde sono majuo koNdo ito toqte oru
まゆ。 それで, その まゆを 今度 糸 とって いる

wakejaro huNde sore do:ju: hu:ni jaruno
訳でしょう。 それで, それ どういう ふうに やるの?

sono kuzuno itoo
その 屑の 糸を,

K kuzuno itoka huNtowa: jaqpa ito toqte mau
屑の 糸か? 本当は やはり 糸を とって もらうべき

tokodena toqte mauno watasira jo: toraNdena
所でね, とって もらうの。 私等は よう とらないのでね。

M huNde sokoe moqteqte toqte moraqte hoNde
それで そこへ 持って行って とって もらって, それで

do: hu:N
どう? フーン,

K toqte maqte hosite soNnaride oruNja
とって もらって, そして そのままで 織るのだよ。

M soNnarite ju:nowa
そのままと いうのは?

A ito toqte maqte
糸を とって もらって,

K toqte maqta ito toqtanaridena ki:tode
とって しまった 糸を とったままでね, 生糸で。

M ki:tode oruno ano hatao huN
生糸で 織るの? あの 機織(はた)を, フン,

K hoqtekara somete morauNjana neqte maqte
そしてから, 染めて もらうんだよね ねって もらって。

mukasiwa ko: ju: kimonodemona: iroiro kinu-
昔は こう いう 着物でもねー, いろいろ。 絹

itowa arewa neqtena somete morawaNnaraNdeq-
糸は, あれは ねってね, 染めて もらわねばならないで

sjaro ucide ne:ru sitomo aqtasina neqte
しょう。 家で ねる 人も あったしね, ねって

maqte somete mau sitomo arusi soica: iro
もらって そめて もらう 人も あるし, それは いろ

iroja
いろだよ。

M so: ju:noo kimononi suruNjaro zibuNno hoNde
そう いうのを 着物に するんでしょう, 自分の。 それで,

josokara kawaheNno joso
よそからは　買わないの？　よそ，

K ho:ja soica josokara kawaheNnojana
そうだよ，　それは，　よそから　買わないんだよね。

M cibau kimononaNkawa
違う。　着物なんかは？

K kimononaNka hora kau
着物なんかは，　それは　買う……

M kaukedomo zibuNnowa mata zibuNde oqtoruno
買うけれども，　自分のは　又　自分で　織っているの？

K he: so:so: zibuNnowa zibuNde oruNjawana
はい，　そうそう，　自分のものは　自分で　織るんだよね。

soicuwa sometе morauNjade
それは　染めて　もらうんだから。

A Nde oba ba:cjaNtacimo maNda kinuno kimono
それで，　おば，　婆さん達も　まだ　絹の　着物，

hoNde jo:ke aqte sometewa kitoruNana〔笑〕
それで，　たくさん　あって，　染めては　着ているがね。

M sora: siqtoruwa
それは　知っているよ。

A mukasino moNdemona to:se:no moNni cjaNto
昔の　物でもね，　当世の　物に　ちゃんと

kawaqde imawa oke:ko kauNnidemo rakunawana
変るから。　今は　お蚕を　飼うんでも　楽なよね，

suteNæ:zjade
捨て飼いだから。

K so:ja suteNæ:jadena
そうだよ，　捨て飼いだからね。

M suteNaiqte nani
捨て飼いって　何？

K sutete o: miNna sotode kaqtarina hosite mo:
捨てて，　皆　外で　飼ったりね　そして，　もう

iqko narutose:ba ano sana nuite maqtena
大きく なると あの さなを ぬいて しまってね,

site: otoite mauNzja ke:koo hote edaguRumi-
下へ 落して しまうんだよ, 蚕を。 そして, 枝ぐるみ

na kuwaseruNdeqsunade imawa rakudesuwana:
ね, 食べさせるんですからね, 今は 楽ですよねー。

A dakedo kitane:wana:
だけど, 汚いよねー。

K hora kitane:wana hora kitane:wana
それは 汚いよね, それは 汚いよね。

A mukasiwa niheNcucu soko toqtara asa iqpeN
昔は 二回ずつ そこを とったら, 朝 一回

toqte baNni iqpeN toqtena hoqte niheNcucu
とって 晩に 一回 とってね, そして 二回ずつ。

K imawa so jaqte cjoqtomo soko tarahenNnoja
今は そう やって 少しも そこを とらないんだよ。

atasi sitakara ikirahenka sjaNto omouwana:
私は 下から いきら(熱くなる事) ないかしらと 思うよねー。

A huNde kitane:wa Nde u:cukusi:wa tæ:te: mo:
それで 汚いよ。 それで 美しくは…… 大てい もう

hacizjuqcjo:kara hjakucjo:na narukonaNzowa
八十ちょうから 百ちょうね, 春蚕なんかは

hjakucjo:wa suqsuzjawana huNde kokode hata
百ちょうは 楽だよね。 それで, この部屋で, フタ,

rokuzjo:mawa sitotanaka siziqcjo:dana site-
六畳間は 一棚か, 四十ちょう棚に して

na dakede huNde hacizjo:mawa koqcjani joN-
ね, それだけで… それで, 八畳間は こちらに 四十

zjqcjo: koqcjani joNziqcjo:toka ucijacu
ちょう, こちらに 四十ちょうとか。 私の家

atarja koko rokuzjo:zjade koko joNziqcjo:to
等では, ここが 六畳だから, ここに 四十ちょうと

zasikino ho:ni haciziqcjo:karana
座敷の 方に 八十ちょうからね。

M honara sono soko torunowa dareŋa toru miN-
それでは, その そこ とるのは 誰が とる? みん

naN
な?

K huN watasiNta toru
フン, 私達が とる。

M otokono sitoniwa nani jaqte morauno
男の 人には 何を やって もらうの?

K otokono sitowa mo: te:ŋe: kuwaseru tokidake
男の 人は もう, 大がい 食べさせる 時だけ

teqtaqte maudakedena 〈M hao kuwaseruno〉
手伝って もらうだけでね 葉を 食べさせるの?

huN kuwaseruno
フン, 食べさせるの。

M kodomo kodomowa nani surunoto 〔笑〕
子供, 子供は 何を するのと?

K kodomowa ma: kuwatori gre:desuna
子供は まあ, 桑とり 位ですよね。

M kuwadori gurai
桑とり 位?

K hu:N haNbuN græ: rjo:ho:kara moqte toru
フーン, 半分 位。 両方から 持って, とる

tokiniwa kodomonidemona teqtawaseraremasukedo:
時には 子供にでもね, 手伝わせられますけれど。

M Nde zeNbu sitoride jaruno
それで, 全部 一人で やるの?

K huN zeNbu sitoride
フン, 全部 一人で。

A Ndena kokodake jaburete mauna ko jaqte su:
それでね, ここだけ 破れて しまうね。 こう やって スー

su: susuqto sana dæ:tari heqtaride huNde
スー スッと さなを 出したり 入れたりで, それで,

kokono me:kakedake kobeqteqte mau suruno-
ここの 前掛けだけ すっかりだめに なってしまう, するの

dena se jaqte kuro: siteqtaNjakedo imano
でね。 そう やって 苦労を してきたんだけれど, 今の

moNni ju:to usoNtæena koto
者に 言うと うそみたいな 事。

A hona josari ke:koke: sitoqte zju:nizija
そうすると, 夜中に 蚕飼いを していて, 十二時や

icizimade græ: hedemo ne: 〈K naNdemo araheN〉
一時まで 位は 何でも ない。 何でも ない

josarini ano soko kaerusina kuwasenaraN
夜中に あの そこを かえるしね, 食べさせなければならない。

K hote zju:nizimade kuwa torudeqsjaro soreka-
そして, 十二時まで 桑を とるでしょう。 それか

ra kuwade 〈M zju:nizi joru〉 sorekara kuwa-
ら 桑で, 十二時, 夜? それから, 食べ

sete nerudeqsjaro hoqto mo: icizidesuwana:
させてから 寝るでしょう。 そうすると, もう 一時ですよねー,

icudemo
いつでも。

M asawa asawa dono kuraini
朝は, 朝は どの 位に?

K asawa mo: gozika sokorani cjaNto okiru
朝は もう 五時 その辺に ちゃんと 起きる。

A harukowana oNdo irimasudena jo:sari jonaka-
春蚕はね, 温度が 或程度要りますからね, 夜 夜中

ni cjaNto mo: zju:nizi:ni nidoqcju: monowa
に ちゃんと もう 十二時に 二度という ものは,

oNdo: sicizju:do ide:niwa zeNzeN dekiN
温度を 七十度 以外には 全然 できない。

sicizju:do te:doni site oku oNdode jaruNde-
七十度 程度に して おく。温度で 飼うんで

sudena: cjaNto kono sitanidemo ju:ruri kiq-
すからねー。 ちゃんと この 下にでも いろりが 切っ

tarimasuŋana: mo: sicizju:do jurina:
てありますがねー。 もう 七十度 より他にはねー,(できない)

hacukara simæ:made sicizju:do
始めから 終りまで 七十度。

A sono oNdo kura:kasuto oke:koŋa Nde naNzjana
その 温度を くるわせると お蚕が……。 それで, 何だね,

sicizju:doto kimete maqtaru Nde josari ni-
七十度と 決めて しまってある。それで, 夜 二

kæ:cucu okite jaraqsaqsuru oNdo miNnaraN
回ずつ 起きて 温度を 見ねばならない。

M sono oNdo nanazju:doni sitekana ikaNjaro
その 温度を 七十度に しておかねば だめでしょう。

soreo do:hu:ni icumo tamoqtoruno sore
それを どの様にして いつも 保っているの? それ,

K iqcumo kamo hi:dena sumi
いつも かも 火でね, 炭,

A gokaNmeja roqkaNme
五貫めや 六貫め。

M irorikiqte irori kiqte hoNde sokoe iretokuno
いろりを 切って, それで, そこへ いれておくの?

icumo
いつも,

K iqpeNni cumikoNde maqte
一度に 積みこんで しまって。

A sumiŋana katazumiwana nihjo:jorina dona
炭がね, 堅炭はね, 二俵よりね どの

kure: nihjo:to kozumi iqpjo:na
位。 二俵と 小炭 一俵ね。

K so:ja kozumi iqpjo:
そうだ, 小炭 一俵。

A soNdake kokono eNno si̥tano jururi kiqtarude
それだけを ここの 縁の 下の, いろりが 切ってあるから,

soko cumekoNde maqtade
そこへ つめこんで しまってあるから。

M cumekomu iqte nani iretokuno
つめこむと いって, 何を 入れておくの?

A mina cumete hoite hæ:wa gjo:saN iretaruni
みな つめて。 そして, 灰は たくさん 入れてあるので,

oNdo kimaqte maqtoru hoNde ciqto korja asa-
温度が 決まって しまっている。 それで, 少し これは 朝

ŋata sabuina:to omoqto kono itameona cjoqto
方 寒いなーと 思うと, この 板目をね, 少し

sukaseqto soNde oNdoŋa aŋaru Nde mo: oke:ko
すかせると それで 温度が 上る。 それで もう, お蚕が

aŋarumade hacuka nizju:goNci gre:wana oNdo
あがるまで 二十日 二十五日 位はね, 温度が

iqte:zjawa soNde sumiŋa uNto iretarude ko-
一定だよ。 それで, 炭が うんと 入れてあるから こ

koe huNde itao cjoq cjoqto sukaseruto oNdo-
こへ。 それで, 板目を ちよっ ちょっと すかせると 温度

ŋa aŋaqte kurudena
が 上って くるからね。

M nacukoŋa owaruto boNni naruno koNda
夏蚕が 終ると お盆に なるの? 今度は。

K so: so: nacukoŋa owaruto oboNjawana
そう そう, 夏蚕が 終ると お盆だよね。

M to so:suruto do: oboNno jo:itoka arujaro
と, そうすると, どう? お盆の 用意とか あるでしょう,

iroiro
いろいろ。

K oboNno jo:ite: kokora oto:ro: tomœ:te
お盆の 用意って, ここらは お燈籠を ともして

mæ:ru gre:desudena: saN joqka
お墓へ参る 位ですからねー, 三, 四日。

A zju:goNcino hini me:rudakezjana hino kure:-
十五日の 日に 参るだけだね, 日の くれ

ni
に。

M naNnimo jo:iwa se:heNno
何も 用意は しないの?

K naNnimo becunina hoNŋaNzidesudena: jo:iwa
何も 別にね。 本願寺ですからねー, 用意は

nanimo se:heN
何も しない。

A mo: oke:ko kaqtara so: detarja sokorahen
もう お蚕を 飼ったら そう 外出すると。 そこらへんへは

ikjœhen hiŋa iretarude abune:dena: oNdo
行けない 火が 入れてあるから 危険なのでねー。 温度が

kimete maqtaqtemona: abune:de doqkomo ika-
決めて しまってあってもねー, 危険だから 何所へも 行か

qzuni omahaN cjoqto ikuto sikasiruni
ずに。 あなた, ちょっと 出かけると 叱られるので。

M icumo baN sitoruno
いつも 番を しているの?

K ho:ja icumo kamona jaqpa uciN orana abune:-
そうだよ, いつも かもね。 やはり, 家に 居れば 危険

desudena
ですからね。

M okaiko kaqteru tokiwa hoNde sotono siŋotowa
お蚕を 飼っている 時には, それで, 外の 仕事は

si:heNno
しないの?

K ho:ja becuni sotoɴo siŋotoqtewaɴa sono
そうだよ, 別に 外の 仕事というのはね。 その

kawari goŋacuni naruto jaqpa taɴboemo ikana-
代りに 五月に なると やはり 田んぼへも 行かね

raɴkedona
ばならないけれどね。

M hoɴde rjo:ho: taɴboto okaiko
それで 両方? 田んぼと お蚕,

K rjo:ho: naqte kuruwana:
両方に なって くるよねー。

M so: suruto so: ju: toki do: suruno
そう すると そう いう 時は どう するの?

K ho: suto jaqpa cjoboqto gre: onaŋowa teqtæ:-
そう すると やはり, 少し 位, 女の人は 手伝い

ni iku græ:dena otokoɴo sitowa icumo kamo
に 行く 位でね。 男の 人は いつも かも

sotoe
外へ。

M a taɴbowa huɴde otokono sitoŋa jaruno
ア, 田んぼは それで, 男の 人が やるの?

A geɴŋekariniwana: iqte hosigeɴŋeni seɴnaraɴde
れんげ刈りにはねー, 行って, 干しれんげに しなければならないから。

uma orude hosigeɴŋeni seɴnaraɴdena: ienibaq-
馬が 居るから, 干しれんげに しなければならないのでねー, 家にばか

ka iterarejaheɴde koɴkini mini keɴnaraɴ
り 居てはおれないので。 根気よく 見に 帰らなければならない,

oɴdo miɴnaraɴde hora hujuuciwa e:na oke:ko
温度を 見なければならないので。 それは, 冬の間は いいよね, お蚕が

deruto mo: soreni simo:kete hujuuciwa okome-
出ると もう それに かまけてしまって。 冬の間は, お米

cukimo seɴnaraɴŋa kimonomo nowaɴnaraɴŋa
つきも しなければならない, 着物も ぬわなければならない,

hatamo oranaraNɲa jame:mo ikanaraNɲa 〈M ja−
機も 織らなければならない, 山へも 行かなければならない, 〈 山

maemo ikaNnaraN〉 ta:raɲosiraemo seNnaraN
へも 行かなければならない?〉 俵ごしらえも しなければならない,

ta:ra kuq kuq kuq kuqtona: imawa kaNbukuro−
俵, クッ クッ クッ クッとなー。 今は 紙袋

zjade i:kedo tawara miNna ucide amuNzjadena
だから いいけれど。 俵を みんな 家で 編むんだからね。

〈M hu:N〉 nakanakana imamite:na kotowa ara−
〈 フーン〉 なかなか, 今の様な 事は ない

seNwana:
よねー。

K imawana: rakusite rakusite rakusirazu nani−
今はねー, 楽をして 楽をして 楽という事をしらない, 何を

jaqtorusiraN
しているのかしらん……

M nani jaqtorusjaNtomoqte
何を しているのかしらんと思って?

A terebi mitorunoɲa siɲotoja
テレビを 見ているのが 仕事だよ。

K hujuni naruto nanisiɲoto jukidemo huruto
冬に なると 何の仕事, 雪でも 降ると

nanisiɲoto sjosiraNto omowaNnaraN
何の仕事を しようかしらんと 思わなければならない。

M hu:N mukasiwa hujuwa isoɲasikaqta
フーン, 昔は 冬が 忙しかった?

K jaqpa watasira kodomo o:kaqtade harisiɲotomo
やはり, 私等は 子供が 多かったので, 針仕事も

gjo:saN nuqtokanana: kisete jaranaraN sabu
たくさん 縫っておかなければねー。 着せて やらなければならない, 寒く

naruto gaqkoe mukasiwa miNna tabino cuɲimo
なると 学校へ。 昔は みな 足袋の つぎも

seNnaraNsi imawa tabino cuŋimite: sja:heNde
しなければならないし，今は 足袋の つぎの様なもの しないから

e:kedo 〔笑〕
いいけれど。〔笑〕

K jo: tabi gaqko iku ziburNwa jo: jabuqte ku-
よく，足袋，学校へ 行く 時分は よく やぶって く

rusina
るしね。

M jukitakusaN huqta mukasiwa
雪 たくさん 降った？ 昔は，

K gjo:saN huqtana mukasiwa
たくさん 降ったね，昔は。

A u:N u:N kuzuja o:kaqtade kanaŋo koNna jacu
ウーン ウーン，くず家が 多かったので つらら，こんな のが

saŋaqtena: koNna kræ: saŋaqte miNna kuzuja-
下ってねー，こんな 位 下って，みな くず家の軒

no kono naraNdena: koNna kure:no kanaŋo
に，この，並んでねー，こんな 位の つららが

saŋaqte
下って。

K micidemo kojaqte arukuto te: sureru kre:de-
道でも，こうやって 歩くと 手が すれる 位で

sitana:
したねー。

A u:u:N
ウーウーン，

K jo: rjo:ho:e aketena maNnakaŋa æ:torudake-
よく 両方へ 雪をかき分けてね，真中が 空いているだけ

deqsjaro
でしょう。

M icuŋorokara huruno:
いつごろから 降るのー？

K sora mo: sono tosino aNbe:dena sjo:ŋacu
それは もう, その 年の あんばいでね, 正月

zibuNka sjo:ŋacumaeni huqta tokimo arusina:
頃か 正月前に 降った 時も あるしねー。

A jo: akesuŋini zju:iciŋacu huqta toki aqtaŋa
よく 秋すぎに, 十一月に 降った 時が あったが。

mada taNbo owaraNnoni
まだ 田んぼが 終らないのに。

K seNso:no hazimaqta tosizjaqtakana zju:ŋacu—
戦争の 始まった 年だったかね, 十月

no zju:saNnicika zju:iciŋacuno zju:saNnici
の 十三日か 十一月の 十三日かに

huqta kotoŋa aruwana:
降った 事が あるよねー。

M hu:N
フーン。

A zju:iciŋacunina mada aki simawaNucini
十一月にね, まだ 秋仕事を しまわないうちに。

K mi:Nna taNbo kaqtenaijacuo nisi: miNna nete
みんな 田んぼの 刈ってないやつを, 西の方へ みな ねて

maqtena: hiŋasino ho:no sumatekara kaqta
しまってねー(稲が), 東の 方の 隅から 刈った

koto aru
事が ある。

A hokubi koNna moNni orete maqta
稲の穂首が こんな ふうに 折れて しまった。

M Nde imawa so: so: huraheN
それで, 今は そう, そう 降らない?

K imawa ziNko: o:naqtadena: huraheN 〔笑〕
今は 人口が 多くなったからねー, 降らない。

M hu:N
フーン。

A hora: mo: mukasiwa sitoni hanaseN kre: na—
それは もう, 昔は 人に 話せない 位 難

NŋI sitekita moNzjawana: nacukasi: kre:
儀を してきた ものだよねー。 懐しい 位。

M Nnara sore cjoqto hanasite sore cjoqto
それでは それを 少し 話して下さい それを 少し。

A sate korecju: kotozjakedomona jaqpa tawara—
さて, 之という 事だけれどね, やはり 俵

Ŋosire: sja: omahaN wara suŋuqtari nawane:—
ごしらえを すれば, あなた, わらを すぐったり 縄ない

Ŋa iciban erakaqta koko mukete mauwana:
が 一番 疲れた。 ここが むけて しまうわねー。

kojaqte hosona: nawaNkotoniwa ome: ohuroe
こうやって 細縄を なわない事には あなた, おふろへ

hæ: re: heN 〈M naNde〉 naNdeqcju: te hima mora—
入れない。 なぜ? なぜといって, 暇を もら

eheNŋa sju:tosaN gozaqte mijo 〈M hu:N〉 ome:—
えないでしょう, しゅうとさんが いらっしゃって みなさい。 フーン お前

ra ano sju:tosaNja ziqsa gozaqtena sju:tosaN
ら, あの しゅうとさんや じいさんが いらっしやってね。 しゅうとさんが

gozaranaNdara mo: nejoka:qte icimæ: taqta
いらっしゃらなければ 「もう ねよが—」といって, 一枚, 唯の

iciwa no:te soNde suqto nurareruke dona:
一把だけ なって それで すっと 寝られるけれどねー。

nakanaka sju:tosaN mo: aNta tawara
なかなか, しゅうとさんが いられると, もう あなた, 俵を

miqcu gre: aNdaNjazo
三つ 位 編んだんだよ。

K e:N icucu gre: aNdawa
いーや, 五つ 位 編んだよ。

A hoNni jonabenja huNdake amuNzjaŋa soNdakeno
本当に, 夜なべには それだけ 編むんだが, それだけ分の

nawa nawa no:te kuNzjaN zjuNbani
縄, 縄を なって ゆくんだよ, 順々に。

M huːN
フーン。

K hoqte jaqpa otokono sitowa otkono sitodena:
そして やはり, 男の 人達は 男の 人でねー,

mukasiwa tawaradesitajaro huNde miNnano
昔は 俵だったでしょう, それで 全部の

tawarano nawa toːsanaraNdesuna kucinawa
俵の 縄を 通さなければならないですよね。 口縄を

toːsanaraNsi ue karaŋerunomo miNna hutoi
通さなければならないし, 上を からげるのも みな, 太い

nawana miNna otokono sitowa koːjuː hutœː
縄ね, みな 男の 人は こういう 太い

nawa onaŋowa hosœː nawa
縄。 女は 細い 縄。

A huNdakeno wara utanaN omahaN nureheNŋana
それだけの わらを 打たなければ あなた, 寝られないがね。

wara uqte morawanana onaŋono keːsjoːde
わらを 打って もらわなければね, 女の かいしょうで(できないから)。

K huNde otokono sitowa kaNuciqtena kaN sjoːー
それで 男の 人は 寒打ちと言ってね, 寒, 正

ŋacu suŋiruto hucukawa ucizomezjaqteqte
月が すぎると 二日は 打ちぞめだと言って,

Nde warauci sitaNzja
それで, わら打ちを したんだよ。

A sjoːŋacu hucukano hiwanaː asa tæːteː ohiruー
正月 二日の 日はねー, 朝は 大てい お昼

made waraucizjaqta hucukano sizome imawa
まで わら打ちだった。 二日の しぞめ。 今は

warauci seːheNdenaː raku naqtetawa
わら打ちを しないからねー, 楽に なってきたよ。

M jamaemo iqta
山へも 行った?

A jame: ikana takimoN araheNŋana 〔笑〕 imanojo:-
山へ 行かなければ たき物が ないがね。 今の様

ni gasuzjatara naNzjataraqteqte takimoN
に ガスだとか 何だとかいって。 (昔は)たきぎ

icimakizjade do:Nto takimoNde na:seN koto-
ばかりだから どーんと たきぎで 準備しない 事

niwana: imawa gasuzjatara naNzjaqteqte
にはねー。 今は ガスだとか 何だとかいって,

takimoNtamo ohurodakezjade iraheNkedona:
たきぎなど おふろだけだから 要らないけれどねー,

doNdake huNna mono jame: iqte imawa mina
どれだけ そんな もの。 山へ 行って, 今は みな

rijakaja kurumade iqtaru ite iwæ:tani oku-
「リャカーや 車で とりに行ってやる」といって 言われるけれど, 奥

made 〈K oinate〉 oinetena:
まで 〈 せおって 〉 せおってねー,

A hote micibatano azeno take: tokode iqpuku
そして, 道ばたの あぜの 高い 所で, 一休み

sitewa hositewa oinete keqtekitano Ndemo
しては, そうしながら せおって 帰って来たの。 それでも,

icinicini hutake:ricucuwa susuq sitano
一日に 二往復ずつは 楽々と したね。

K mukasino moNno koto omouto imano moN asuN-
昔の 者の 事を 思うと, 今の 者は 遊ん

dorujo:na moNja kedo hoNdemo soNdemo isoŋa-
でいる様な ものだ。 けれど, それでも, それでも, 「忙

si: isoŋasi:qteqte 〔笑〕
しい 忙しい」と言って。

M uhuhu isoŋasi:
ウフフ, 忙しい……

A isoŋasi: isoŋasi:
忙しい, 忙しい……

M kodomodemo jama ikuno
子供でも 山へ 行くの?

K e: kodomodemo jame:na gaqkokara socuŋjo
ええ, 子供でも 山へね, 学校から 卒業,

gaqko aŋaqte kuruto ci:se: kaŋo oinetewa
学校から 帰って くると, 小さい 籠 せおっては

iqtano
行ったの。

A Nna sjo:kozijame:na kodomo goniNmo rokuni-
ね, ショーコ寺山へね, 子供が 五人も 六人

Nmo curaqte hasiruwana: nakanaka ta:raamiwa
も 連れだって 走って行くよねー。 なかなか 俵編みは

kokoŋana: surerusi:
ここがねー, 擦れるし。

K miNna kokoŋa kimono jaburete maqte ko:ju:
皆 ここが, 着物が 破れて しまって, こういう

tokoni hibi iqpe: kiretaŋana:
所に ひびが 一ぱい きれたがねー。

A ucijaqtara ozizisa omæ: aNda jacuwa akaN
私の家では おじいさんが「お前の 編んだ のは だめだ,

sime:de: nawa naeqteqte huqte nawane:baqka
俵がしまらないから。 縄を ないなさい」と言って, そして, 縄ないばかりを

saserareta
させられた。

M Nde jamae iqtarasa iroiro maqtaketoka aru-
それで, 山へ 行ったらさ, いろいろ, 松茸とかが ある

jaro: so:ju:nowa jama
でしょう。 そういうのは? 山,

K maqtakewa ano akide nakerana he:re:heNdena
松茸は あの, 秋で なければ 入れないからね。

nacu aki
夏　秋

M jamae kinoha kakini iku tokiwa
山へ　木の葉を　かきに　行く　時は？

K huNna zibuN arahaN naNnimo arahaN jamaakeni
そんな　時分は　(松茸は)ない。何も　ない。　山開き後に

ikutose:ŋa hjoqto suqtona: minokosika oso—
行くと　ひよっと　するとねー，　見残しか　遅

deqte jacukaŋa aru tokimo aqtakedona 〈M mi—
く出てきた　ものかが　ある　時も　あったけれどね。　見

nokosi a: so:ka huNhuN〉 torasita atonona
残し？　ああ　そうか，　フンフン　〉他人がとられた　後のね，

minokosiŋana oso: deta jacuka naNja sjaNke—
見残しがね，　おそく　出た　ものか　何か　しらないけ

do hjoqtosuruto iqpoNmo aqtaka sjaNŋa meq—
れど，ひよっとすると　一本も　あったか　しれないが，めっ

tani ne:wana
たに　無いよね。

M hu:N
フーン。

A zju:iciŋacuno hacukazjade
十一月の　二十日だから。

K hacukaŋa jamaakejaqtadena
二十日が　山開きだったからね。

M baNsju:no atono kaikote kawaheNno mo:
晩秋の　後の　蚕って　飼わないの？　もう，

K baNsju:wa baNsju:no atono baNbaNsju:qte
晩秋は，　晩秋の　後の　晩々秋って

jacuŋa aru
ものが　ある。

M aruno arukedo kawaheNno kokoraheNwa
あるの？　あるけれど　飼わないの？　ここら辺は，

K kaqtakedona: soicuo cjoboqtoka kawaheNwana
飼ったけれどねー, それを 少ししか 飼わないよね。

A cjoboqtona: muradakede kauna:na
少しねー, 村だけで 飼うのだね。

M muradake
村だけ?

K kuwa toqtana: nacuja nacukoja sju:koni to—
桑を とったねー, 夏や, 夏蚕や 秋蚕に と

qta sakiqpoŋa nokoqtoruNja uewa hoNdena
った 先端の方が 残っているんだよ, 上の方は。それでね,

〈M hu:N kuwaŋa nokoqtoruno〉 haŋa nokoqtoru—
フーン, 桑が 残っているの? 葉が 残っているか

de Nde soicude cjoboqto kaqtadakejawana:
ら, だから それで 少し 飼っただけだよねー,

baNbaNsju:te ju:tose:ŋa
晩々秋と いうと。

A soicuo cjoboqto kautona: mo: uci: soNna
それを 少し 飼うとね, もう 家は そんな

oke:kosaNno zeni ateni sitoraheNde soNna
お蚕さんの 銭は あてに していないから, そんな

zibuNwa soicu uqte hoite icinomijamade ito
時分は それを 売って, そして 一宮まで 糸を

ke:ni iqte soicude hata oruNzjana
買いに 行って, それで 機を 織るんだよね。

M ito kaini ikuno koNdowa: Nde hata oruno
糸を 買いに 行くの? 今度は, それで 機を 織るの?

A ito ke:ni iku zeni kosaeruNzjana hoqte mi—
糸を 買いに 行く 銭を こしらえるんだよね。 そして, 皆

Nnano kimono huju kosæruNzja huNde hata
の 着物を 冬に 作るんだよ。 それで 機を

oranaraN soica ucizju: atekotoni
織らなければならない, それを 家中の者に 宛てる為に。

M a n o z i b u Nd o k o d e k i r u n o w a n e : h o d e z e N b u i e d e
あの, 自分の所で 着るのはねー, それで 全部 家で

o q t a n o
織ったの?

K h u N u c i d e o q t a n o
フン, 家で 織ったの。

M h a t a Nd e k a w a h e N n o s o : j u : k i z i j a n a N k a
機? それで, 買わないの? そう いう 布地や 何か,

A k a w a h e N c j o q t o m o k a w a h e N z e N b u o q t a n o z i b u ー
買わない。 少しも 買わない。 全部 織ったの, 自分

Nd e n a N n i m o k a w a h e N k i m o n o h a q k a k e d e m o u r a ー
で。 何も 買わない。 着物や はっかけでも 裏

d e m o n a : m i N n a o q t a N s i m a z i b u Nd e h a Nk o o s i ー
地でもねー, 皆 織ったの。 縞は 自分で もようを おし

t e k o s e r u N z j a d e
て 作るんだから。

M h o n a i c i n e N z j u : i s o ŋ a s i : n e :
それでは 一年中 忙しいねー,

K i s o ŋ a s i : s o r a i c i n e N z j u : c j o q t o m o h i m a n a q t e
忙しい。 それは 一年中 少しも 暇なという

k o t o a r a h e N
事は ない。

(ロ) 経済的な面その他

M h o n a r a a n o : j o s o i k u t o k a a r a h e N n o s o : j u :
それでは あのー, よそへ 行くとかは ないの? そう いう

k o t o a s o b i n i i k u t o k a
事は, 遊びに 行くとか,

K a s o b i n j a m e q t a n i i k a h e n a N d a n a :
遊びには めったに 行かなかったねー。

M hu:N okaqtemo aNzjaro
フーン, お勝手仕事も あるんでしょう?

K okaqtemo seNnaraN 〔笑〕
お勝手も しなければならない。

M hona omacuriwa
それでは お祭りは?

K omacuriwa: mo: okjakusaN jobaNnaraNsina:
お祭りは もう お客さんを 呼ばなければならないしねー,

sode jaqpa josono omacuriwa hora: ikuwana:
それで やはり, よその お祭りには, それは 行くよねー。

M huN kaikote dono kurai toreruno zeNbude
フン, 蚕って どの 位 とれるの? 全部で,

icineNde
一年で,

K doNna kure: toretajaro icineNde
どんな 位 とれただろうか, 一年で,

A ho:zja mukasiwana:
そうだね, 昔はねー……

K mukasja: gozjuqkaN gre: toqtaka wakaraNna:
昔は 五十貫 位 とったか わからないねー。

A hu:N sozjakedona: atakusiNta: koko kitani
フーン そうだけれどねー, 私達が ここへ 来た時に,

okome taka:ŋa ima iqpjo:de mukasidemo iqp-
お米は たかが, 今 一俵で, 昔でも 一

jo:wa iqpjo:zjana joNto goeNdesitani
俵は, 一俵だね, 四斗が 五円でしたが。

M naniŋa
何が?

K okome iqpjo:ŋana goeNzja kjo:bi nanase:eN-
お米 一俵がね, 五円だよ。 今は 七千円

deqsjaro goeNdesitana soNdemo siNsjo: jaq-
でしょう。 五円でしたね, それでも 身上を 保っ

tetaN ame'dama si'tocuboja hoNna koto ju:to
てきたの。 飴玉 一粒だ, そんな 事を 言うと

warawarerukedomona: 〔笑〕
笑われるけれどもねー。

A ho:ja jo: jaqte kiqteqtaqta goeNdesitaNna
そうだ, よく やって きたという様なものだ。 五円でしたのね,

kome iqpjo:buNno 〈K zju:roqku ima zju:roq〉
米 一俵分の……。 十六, 今 十六……

M kaikowa dono kurai
蚕は どの 位?

A ke:kowa tæ:te:
蚕は 大てい,

K gozjuqkaN gurai aqtajaro icineNde
五十貫 位 あったでしょう, 一年で。

A gozjuqkaN gre:zjaroke:na harukodakedemo
五十貫 位であるもんかね, 春蚕だけでも……

K harukodemo saNzjuqkaNno saNzju: goroqkaN
春蚕でも 三十貫の, 三十 五・六貫。

A saNzjuqkaNnaNteqdena so: jaqte jaqteqtemona:
三十貫とか何とかでね, そう して やってきてもねー,

soNdemo me:ŋa ano komeno oita moNzjadena:
それでも まゆが, あの, 米の

ohazukasi: jona moNzjaŋana: huNdemo naNzja-
お恥ずかしい 様な ものだがねー。 それでも 何だ

wa ikura gure:ni iqtana aNde
よ, いくら 位に なったかね, あれで。

K ikura gre: tore mo: oboe
いくら 位 とれ…… もう 覚え……

A zju:goeNno toki aqtana: nacuko huqtena:
十五円の 時が あったねー, 夏蚕。 そしてねー,

M iqkaNŋa iqkaNmeŋa
一貫が? 一貫めが?

K ziqkaNme 〈A zjuqkaNmeŋana:〉 ano
十貫め 十貫めがねー あの,

M zjuqkaNmeŋa zju:goeN
十貫めが 十五円?

A ami korewana: me:wana:
之はねー まゆはねー,

K zju:goeNmo sitakasiraN
十五円も したかしら。

A naNzja aŋe ame ano aŋeta tokinina ame:
何だよ, あげ…, 雨, あの, あげた 時にね, 雨が

huruto sono me:ŋa tataNdena: ki:toja dasaN-
降ると その まゆが たたないからねー, 生糸を 出さない

de hoNde jaqsuikedo aŋeta tokino oteNkiŋa
ので, それで 安いけれど, あげた 時の お天気が

e:tejaqcjato uNto tako: kaqte kudena: huN-
よいという場合は うんと 高く 買って 行くからねー, それ

de sono tokino aNbe:desuwa korewae: 〈M naN-
で その 時の つごうですよ, 之はねー。 どうし

de kawaitoruto i:〉 oteNkide
て 乾いていると いい?〉 お天気の関係で。

K oteNki e:tona itono taciŋa e:no me:wa itono
お天気が よいとね, 糸の 質が よいの, まゆは。 糸の

taciŋa
質が。

A huNde okæ:koaŋe sitemona simekiqtoqte akika-
それで お蚕あげを してもね, 閉めきっていて

N ho:qto ko:jaqte me:o cuqcuqcuqto suqtokja
こうやって まゆを ツッツッツッと

itokuciŋa mina kawæ:te kurudeqsjaro amedemo
糸口が みな 乾いて くるでしょう。 雨でも

huqte siketa tokja itokuciŋa miNna me: ko-
降って しけた 時は 糸口が みな, まゆを 作

s e : t e　k u n o n i　i t o k u c i ŋ a　h i q c u i t e m a u N　h u N d e
って　行くのに，　糸口が　くっついてしまうの。　それで

a n o :　z j o k o : s a N ŋ a n a　i t o　t o r u n o n i　c j o q t o m o
あのー，　女工さんがね，　糸を　とるのに　少しも

t a q t e　k o N n o z j a w a n a　k a r a k a r a k a r a k a r a　t a q c u
たって　こないのだよね。　カラカラカラカラ　タッツ

i t o k u c i ŋ a　s i k e t e　m a q t o r u　h o s u t o　m e : ŋ a　u N t o
糸口が　しけて　しまっている。　そうすると　まゆが　うんと

j a q s u i d e s u w a　a q k o　u c i N t o w a　o : s o :　k a w a s i t a d e
安いですよ。　「あそこは　私の所より　遅く　飼いなさったので

a s o k o w a　t a k o :　u q t a t o k a n a　c j o q t o　h a j o　k a q t a ー
あそこは　高く　売られた」とかね，　「少し　早く　飼った

d e　m e : n o　t a c i ŋ a　w a r u i d e　j a s u i t o k a q t e n a :
為　まゆの　質が　悪いので　安い」とか言ってねー。

d æ : b u N t o　h u N d e　i c i n e N n i　t o r u n a　h a r u k o d a k e d e
大分に，　それで，　一年間に　とるね，　春蚕だけで

s a N z j u q k a N j a　j o N z j u q k a N　t o r u d e q s j a r o　m o :
三十貫や　四十貫　とるでしょう。　もう

s o n o　a t o k a r a w a n a :　s o t o d e　h a ŋ a　c u N d e　k i m a s e ー
その　後からはねー，　外で　葉を　摘んで　こなければ

N n a r a N d e n a :　u c i :　t o r i k o m e : h e N d e　N d e　s u k u n o :
なりませんでねー，　家へ　とりこめないので，　それで　少なく

n a r i m a s u w a
なりますよ。

M　N d e　h a r u k o w a　i c i b a N　o : i
それで　春蚕は　一番　多い？

K　u N　h a r u k o ŋ a　i c i b a N　o : i w a n a　h a r u k o t o　s j u : k o
ウン，　春蚕が　一番　多いよね，　春蚕と　秋蚕

t e q　j a c u j a n a
という　のがね。

A　i c i b a N　o : i w a n a :
一番　多いよねー。

K atowa mo: dojo:kojara nacukowa ano: acui
その他は もう, 土用蚕や 夏蚕は あのー, 暑い

tokijade so:mo kaemaheNjaro kozewasi:dena:
時だから そう多くも 飼えないでしょう。 忙しいでねー,

joke: kuwasete kaNnaraNde
よけいに 食べさせて いかなければならないので。

A dæ:te: hacukade aŋaqte maude
大体 二十日で あがって しまうから。

K uN hacukade aŋaqte maudena: Nde joke kaena—
ウン, 二十日で あがって しまうからねー。それで よけいに とりかえ

raN
なければならない。

A harukowa sitocukizjaqtana
春蚕は 一月だったよね。

M huNde kaikono okaneto sorekara okome okome
それで 蚕の 代金と, それから お米, お米,

okome okomeo uqta okane
お米, お米を 売った 代金。

A Ndakezjana soŋa sju:nju:ni naruno
それだけですね。 それが 収入に なるの。

K so: so: otokono sitowa jame: iqte takimoN
そう そう, 男の 人は 山へ 行って たきもの,

warikino iqsokumo surudake
割木の 一束も するだけ。

A hora ima nanase:eNmo okome sitemo iqpe:iq—
それは, 今 七千円も お米の値が しても 一ぱい—

pe: hoNtono hanasiŋa goeNno okomezjaqtoqte
ぱい, 本当の 話が。 五円の お米だといっても,

huNnara sjaqkiN haciwara naqtakato i:ja
それでは 借金が 一ぱいに なったかと いうと

do:ka ko:ka mawaqte kuŋana: kore takaŋa
どうか こうか やりくりして 行くがねー。 これ, 僅か

goeNdaqtana goeNno komede kore se:kacu
五円だったね。 五円の 米で, これ, 生活を

sịte kitaNnade buqka sono:
して きたんだから。 物価, その－……

K sono kawari imamite:ni ze:taku se:heNwana:
その かわり, 今の様には ぜいたくを しないよねー。

osato naNkademo omacuri gre:hoka taberarehe－
お砂糖 なんかでも お祭り 位 しか 食べられな

naNda otohudemo imawa hudaNdemo to:hu:ziru－
かった。 お豆腐でも 今は 平素でも 豆腐汁

kanaNka 〔笑〕〈A oto:humo ataraheN〉otohumo
か何か, お豆腐も あたらない お豆腐も

ataraheN mo: omacuri gre:dena: nakena naN－
あたらない。 もう お祭り 位でねー なければ, 何か

zoθoto nakerana otohumo ataheNnaNda
事が なければ お豆腐も あたらなかった。

A huna kure:ni sịte ita moNzjawana hora okome
そんな 位に して いた ものだよね。 それは, お米が

goeNno tokininaNzo jukata icime: kaqte nie－
五円の 時なんかは 浴衣 一枚 買って 二円

Ndaqtani
だったのに。

M kodomowa kodomoqte takusaN irukedo dono
子供は? 子供って たくさん いるけれど どの

kurai
位?

K kodomoka:〈M naNniN gurai〉watasiwa: ano:
子供かー, 何人 位? 私は, あのー,

gjo:saN 〔笑〕 watasiwa gjo:saN uNdade gjo:saN
たくさん, 私は たくさん 産んだから たくさん

oqtakedo
居たけれど。

M oba:saNwa hutarija
お婆さん(Aの事)は 二人だね。

A u:N ba:cjaN hutari
ウーン, お婆ちゃん(自分)は 二人。

K watasiwa rokuniN
私は 六人。

M mukasiwa o:ikedomo
昔は 多いけれども。

A huNna koto ju:zjakedo ome: kitamija jaqsa-
そんな 事 言うけれど, あなた, 北みやの やすさん

Ntademo kuniNmo uNda:wana miNna imawa miN-
(人名)等でも 九人も 産んだよね。 皆, 今は 皆

na seNŋe sitemaude umaNkedomona: hajo:wa
制限 してしまうから 産まないけれどもねー, 昔は

naNzjana mukasiwa miNna roku hiciniNŋa
何だね, 昔は 皆 六・ 七人が

hucu:daqtawana 〈K so:ja hucu:jaqtawana:〉
普通だったよね。 そうだ, 普通だったよねー

rokuniNŋa ciqto hiqtoi sị̥towa hoNtoni kuni-
六人が。 少し 極端な 人は 本当に 九人

Nja zju:niN suŋuni
や 十人は すぐに。

K zju:niNmo umasita sị̥to aruNjadena
十人も 産みなさった 人も あるんだからね。

A kitano jaqsa: mijo kuniNmo uNdani 〔笑〕 soN-
北の やすさんを 見なさい, 九人も 産んだんだから, それ

demo miNna
でも 皆……

K atasimo miNna atasimo hiciniN uNdakedo
私も みんな, 私も 七人 産んだけれど

sị̥toriwa mo: sjo:wani naqtekara umaretaNja-
一人は もう 昭和に なってから 産まれたんだか

de 〈M huːN フーン〉〈A hoNtonina 本当にね〉 atowa rokuniNwa
ら, その他は, 六人は

hajoːno ucini uNdadenaː
早い 間に 産んだからねー。

A konno maeno kazoːsaNtacidemona hici haciniN−
この 前の家の 嘉蔵さん等でもね, 七・ 八人

mo kuniNmo
も 九人も。

M huNde miNna geNkijano
それで 皆 元気なの?

K eː uciwa miNna okaᵝesaNde 〔笑〕
ええ, 私の所は 皆 おかげ様で。

A miNna moː sjotæː moqte maᵝosaN aru
皆 もう 世帯を もって, 孫さんも ある。

M Nde erakaqtaneː hoNdemo takusaNjade
それでは 辛かったでしょうねー, それでも, たくさんだから。

K uN huNdakeno ko kisodate seNnaraNdenaː
ウン, それだけの 子供を 着育て しなければならないのでねー,

imano anoː iciban sitano sjoːwa naqtekara
今の あのー, 一番 下の, 昭和に なってから

uNdanowa arewa moː ano zibuNwa haja kodomoN
産んだのは, あれは もう, あの 頃は もう 子供の

tokikara hukudesitadenaː
時から 洋服でしたからねー。

M huku soremadewa kimono
洋服, それまでは 着物?

K huN soremade kimono soremaeno rokuniNwa
フン, それまでは 着物。 それ以前の 六人は

miNna kimono nuqte sitatemasitaqtewa kise−
皆 着物を 縫って 仕立てましては 着せ

taNjadena 〈M zibuNde oqte 自分で 織って?〉 heː zibuNde
たんだからね。 へー, 自分で

oqtewana:
織ってはねー。

A Nde gaqko:e ikuNdemo hakama hæ:te iqtaNja—
それで，学校へ 行くのでも 袴を はいて 行ったんだ

wana: hona imanona: hukuzja: araheN miNna
よねー。 そんな 今の様な 洋服では ない。 皆

naNzoŋotojato hakama otokodemo onaŋodemo
何事かの場合は 袴を， 男でも 女でも

hakamazjadena
袴だからね。

(3) 戦争中の思い出

録音日時 1967年3月3日
録音場所 垂井町岩手漆原
浅野ふみえ氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
K	児玉きぬえ	女	明治32年生	農業	大垣市字柳(0～18) 垂井町岩手漆原(18～)
A	浅野ふじえ	〃	〃 26年生	〃	垂井町府中市尾(0～18) 垂井町岩手漆原(18～)
M	浅野ふみえ	〃	昭和21年生	学生	垂井町岩手漆原(0～)

解説：(イ)空襲に逃げまわった事(p.52～p.59)
(ロ)食糧事情の苦しかった事(p.59～p.68)

(イ) 空襲のこと

M hona seNso:cju:no hanasi site mao:ka seNso:—
それでは，戦争中の 話を して もらおうか。 戦争

cju:
中,

K seNso:cju: 〔笑〕 seNso:cju:wa osorosikaqtade
戦争中, 戦争中は 恐しかったよ。

bo:ku:ŋo: 〔笑〕
防空壕,

A bo:ku:ŋo: doNdake heqtajara sireN ome:Nta
防空壕に どれだけ 入ったやら わからない。 お前等は

koNna moNzjakedo oNdeja heqtaNja
こんな位の 大きさだったけれど, 背負っては 入ったんだよ。

M oNde haiqta
背負って 入った?

K watasira:demo hideowa mo: josari bo:ku:ŋo:
私等でも 秀雄は もう… 夜中に 防空壕,

aNni ano: sairen narutose:ŋa cja:qto soko-
あれに あのー, サイレンが 鳴ると すぐに そこ

rahen okite maqkurokejasi okitena o:bi:
らへん, 起きて, 真暗だし, 起きてね, 帯,

obi saŋe: kojaqte tesaŋuride obi toqte hoq-
帯を さがして, こうして 手探りで 帯を 取って, そし

te senakani oNde maqtano
て 背中に 背負って もらったの。

M na:Nde watasi ciqcjakataqju:te watasi uma-
どうして? 私 小さかったと言うけれど, 私は 生ま

retorahenjo
れていないよ。

K umaretorujaro aNta naNneNumarejano
生まれているでしょう。 あんたは 何年生まれなの?

M watasi nizju:icinenjawa 〈K a: ho:ka huNde-
私は 二十一年生れですよ。 あー そうか, それで

wa〉 umaretorahenjo watasi 〈K so:ja〉
は,〉 生まれていないよ, 私は。 そうだ

A seNso:suŋizja
戦争すぎだ。

K seNso:suŋijano watasiN dokowa zju:joneNni
戦争すぎだね，　私の　所は　十四年に

umaretoruN icibaN sime:ŋana:
生まれているの，　一番　終りがねー。

A naNzoto bo:ku:ŋo: ucino jomesaNwa amidasaN
何かと，　防空壕へ　家の　嫁さんは，　阿弥陀さんを

sitocu icumokamo senakani oinete aruite
一体，　いつもかも　背中に　背負って　歩いて

gozaqta
いられた。

M hu:naN amidasaNqte nani
そんな，　阿弥陀さんって　何？

A hotokesaN amidasaNqte siraNjo:na sito 〔笑〕
仏さん。　阿弥陀さんって　知らない様な　人，

kono sito nasakenai koqcjawa amidasaNqte
この　人は　情ない　事だよ。　阿弥陀さんって

siraN kono sito
知らない，　この　人。

M oinetoruqte nani
背負っているって　何？

A senakani oinetoruNzjana hoNde iqsjo:keNme:
背中に　背負っているんだよね。　それで　一所懸命

hasiqte aruitoruNzjana: bo:ku:ŋo:e he:rana—
走って　歩いているんだよねー。　防空壕へ　入らなければ

raN kona uci hoke:te:tena: urano hatakeno
ならない，こんな　家は　うち捨てておいてねー，　裏の　畑の

bo:ku:ŋo:eto amidasaN sitocu wateNta soNna
防空壕へと。　阿弥陀さん　一体，　私達は　そんな

moN hoqte mosi doNna koqte me:me:ni ano:na:
もの　捨てておいて。もしかして　どんな　事で，　めいめい，　あのねー，

jakaretara me:me:ni dokoedemo njŋeho:kezja—
焼かれたら めいめい 何所へでも 逃げ次第だか

de miNna kosinina: saNze:ka goseNeNcucu
ら, 皆 腰にねー。 三千円か 五千円ずつ,

dokodedemo kucisuŋi ko:tekurujo:ni me:me:
どこででも 口過ぎ 蒙ってくる事ができる様に, めいめい

hotokoroni icumo kamo kosini me:toqtaNzjana
懐に いつも かも, 腰に 巻いていたんだよね。

Nna si°totoko jorerujara joreNjara wakarahe—
それは, 一所へ 集まれるやら 集れないやら わからない

Nde niŋete aruita tokini Nde miNna ma: go—
から, にげて 歩いた 時に。 それで 皆 まず 五・

rokuse:eN moqte aruitorusi dokozokaNzode
六千円 持って 歩いているし, どこかかんかで

kucisuŋi suruzjaro miqka:ja joqka Nde so:
口過ぎ できるでしょう, 三日や 四日間。 それで そう

jaqte miNna me:me:no hotokoroe zeni moqte
やって 皆 めいめいの 懐に 銭を 持って,

hote siŋoto sitoqtaNja
そして, 仕事を していたんだよ。

M honara he:taini iqtajaro
それでは, 兵隊に 行ったでしょう。

A uN to:cjaNka sono e:dadaqte ba:cjaNto zi:—
ウン, 父さんか。 その 間でも, 婆さんと じい

cjaNto hutariŋiri hote ka:cjaNwa seNso:ni
さんと 二人だけ。 そして 母さんは 戦争に

naqte kitakedona sojaqte jaqte ka:cjaN ziq—
なって後に 来たけれどね。 その様に して 母さん じい

sato wasidaqte icu naNdoki bjo:niNni ari
さんと, 私だって いつ 何時 病人に ……

miNna zeni moqte hoNde taNboe iqte hotokoro
皆 銭を 持って そして 田んぼへ 行って, 懐に

zeni moqte sa: iqta tokini me:me: kucisuɸi—
銭を 持って さあと いった 時に めいめい 口過ぎの

zjanamo: honamo to:saNta ba:saNdano iqtera—
為ですねー。 そんなもの, 父さんとか 婆さんとか 言っていら

rejaheNdena: me:me:no kucisuɸi se:naraN
れないのでねー, めいめいの 口過ぎを しなければならない。

hoNde cja:Nto zibuNno hotokoro
それで ちゃんと 自分の 懐。

M hona kodomowa do: sitano a: so: mo: o:ki:ka
それでは 子供は どう したの? ああ そう もう 大きいか,

sono korowa
その 頃は。

K he: kodomo mina gaqkoe iqtoqtadena gaqko:—
はい, 子供は 皆 学校へ 行っていたからね, 学校

dewa jaqpasi hinaNkuNreN jaranaNka osiete
では やはり 避難訓練 やら何かを 教えて

maqte jaqtoqtadeqsjaro do:sena
もらって やっていたでしょう, どうせね。

M hidokaqtano kokoraheN
ひどかったの? ここら辺は,

K hidokaqtawana: 〈A u:N u:N〉 ho:jakedomo
ひどかったよねー, ウーン, ウーン そうだけれども

jakerujo:na kotowa nakaqtadena: bakudaN
焼ける様な 事は なかったからねー。 爆弾や

sjo:judaN ocirujo:na kota: nakaqtade joka—
焼夷弾が 落ちる様な 事は なかったから よか

qtaNde
ったのよ。

A ano taruie ocita tokini osorosikaqta koto—
あの, 垂井へ 落ちた 時は 恐ろしかった 事

na: hiqdoi otozjaqta mo:
ねー, ひどい 音だったよ, もう。

K o:ŋaki oqta tokimo hidokaqtadena:
大垣へ 落ちた 時も ひどかったからねー。

A hosite ociruŋa hæe:ka kemuri haja: aŋaride:—
そして 落ちるや いなや 煙が すぐ 上りだした

tadena:
からねー。

M biqkuri si̥ta
びっくり した。

A biqkurimo hecjakre:mo
びっくりも 何も……

K atasira aNmari bi:nizju:kuka naNzja siraN—
私等は 余り, B二十九か 何か 知らない

kedo nisikara gjo:saN kitade taNboni oqte
けれど 西から たくさん 来たから, 田んぼに 居て,

kakino kino si̥tani oqtakedomo osorosikaqta—
柿の 木の 下に 居たけれども 恐ろしかったで

jaro huNde cjaqto ke:qte kitara ke:qte ki—
しょう, それで すぐに 帰って きた所, 帰って き

te otoŋuci mataŋuka mataŋaNkani doqkaNto
て 入口を またぐか またがんかの間に ドッカンと。

biqkuri cuite mata tobideqte maqta 〔笑〕
びっくり して 又 とび出して しまった。

〈A hoNtoni〉 soN tokja: o:ŋakinona: ano ano
ほんとに その 時は 大垣のねー, あの, あの,

mukasi asokoni zjoŋaqko: aqtaNjakedo imawa
昔 あそこに 女学校が あったんだけれど, 今は,

mukasino ko:buNŋaqko:no asokono awæ:sae
昔の 異文学校の, あそこの 間へ

oqta tokizjaqta
落ちた 時だった。

A huNtoni oiwake naNdo oqta tokino otona
本当に 追分 なんかへ 落ちた 時の 音はね。

M biqkuri sitano
びっくり　したの？

K biqkuri cuita i:doi otojaqta iqtaN otoŋuci
びっくり　した。　ひどい　音だった。　一旦　入口へ

he:runarijaqtadena: mata biqkuri cuite so-
入るといきなりだったからねー，　又　びっくり　して　外

toe tobide:teqta 〔笑〕
へ　とび出していった。

A osorosikaqtamona: doNdake hoNtoni
恐しかったものねー。　どれだけ　本当に，

K ta:Nboni oqtetena: muŋi karu zibuNdemo na:-
田んぼに　居た時ねー，　麦を　刈る　頃でも，　どう

Nde miNna muŋi karuni usi hokai usino cuka-
してか　皆　麦を　刈るのに　牛を　捨てて，　牛を　使

qte gozaqtemo usi hoke:te:te miNna niŋeteq-
って　いられても，　牛を　うち捨てておいて　皆　逃げて行っ

te mawaqserude na:Ndejaroqtena
て　しまわれるので，　「どうしてだろう」と言ってね。

A do: do: do: do tona:
ドー　ドー　ドー　ド　とねー。

K gjo:saN kurumoNjade miNna mo:he: miteja
たくさん　来るものだから，　皆　早く　見つけて

miNna niŋeteqte mawaqseru watasira muŋi
皆　逃げていって　しまわれる。　私等は　麦を

kaqtoqtade siranaNdara hositara mina naNde
刈っていた為　知らなかった所，　そうすると　皆　どうしてか

uma usijara hoke:te:te iqte ma:rujaro hosi-
馬や　牛やを　うち捨てておいて　行って　しまわれるでしょう。　そうす

tara hositara gjo:saN kitajaro hositara
ると，　そうすると，　たくさん　来たでしょう，　そうすると

to:mjo:saNde ano naNja sjaN otoitaNjawana
燈明さん（場所）へ　あの，　何か　しらを　落したんだよね。

〈M hu:N ho:ja〉 huNde watasira cjaqto muŋi
〈フーン, そうなの〉 それで 私等は すぐに 麦を

sokunju:taru awæ:sae ko: jaqte kakuretake-
束ねておいてある 間へ こう やって かくれたけれ

dona: ho:to sokobaqkademo orenaNdade mata
どねー, 所が そこばかりにも 居られなかったから 又

kino aru tokoe hasiteqte maqta ano tokja
木の ある 所へ 走って行って しまった。 あの 時は

osorosikaqtawana:
恐しかったよねー。

(ロ) 食糧事情のこと

M dareka sjaN koqcino ho:ene miNna sokaisite
誰か しらないが こちらの 方へね, 皆 疎開して

mietaqte
きていられたって?

K ho:zja miNna soke:site kitena
そうだ, 皆 疎開して きてね。

M macino ho:no sitoŋa
町の 方の 人が?

K hu:N maci watasimo to:kjo:karana: imo:toŋa
フーン, 町 私の所も 東京からねー, 妹が

soke:site kitoqtadena
疎開して 来ていたからね。

M oba:saNmo kokoni dareka siraN sokaisitoqta-
おばあさんも 「此所に 誰か しらが 疎開していた」

to iqtadesjo:
と 言ったでしょう。

A kokoni gozaqta hiŋasino kojanina: gozaqta-
ここに 居られた。 東の 小屋にねー 居られた

wana: æ:saqte ju: sị̥to huta:ri o:katano ie
よねー, 愛さんと いう 人 二人が。 大ていの 家へ

kite gozaqtawana darezo kaNzo kojae
来て いられたよね, 誰か かれかが, 小屋へ。

K soke:site kitemo naNnimo ano zibuNwa seNso:-
疎開して きても 何も あの 頃は, 戦争

zibuNwa taberu moN araheNna: hæ:kju:baqka-
の頃は, 食べる 物が 無いよねー, 配給ばか

side
りで。

M koqci hoNdemo no:ŋjo: sị̥toqtaNjaro
こちらは, それでも, 農業を していたんでしょう。

K hu:N no:ŋjo: sị̥toqtade zjaŋaimodemo tabeto-
フーン, 農業を していたので 馬鈴薯でも 食べて

qtaNja
いたんだよ。

M a: zjaŋaimo okomewa
あー, 馬鈴薯, お米は？

K okomewa aqtakedomo jaqpasina hæ:kju:desị̥-
お米は あったけれども やはりね, 配給だったでし

tajaro huNde iqkura zibuNno dokode okome
ょう。 それで いくら 自分の 所で お米を

toqtemo hæ:kju:jaqtadena sị̥toriatari saNŋo:-
とっても 配給だったからね, 一人当り 三合

nara saNŋo: niŋo:nara niŋo:ateNdenaN doNda-
なら 三合, 二合なら 二合宛でね, どれだ

keqteqte soNdakeka nokosasite moraehenaNda
けと言ったって それだけしか 残させて もらえなかった。

M a: sore zeNbu dasite mauno atowa ato zeNbu
あー, それ 全部 出して しまうの？ 残りは, 残りは 全部

dasite mauno
出して しまうの？

K ikutari oqte naNbjo:teqtena kimaqtotaNdena
幾人 居て 何俵といってね, 決まっていたのでね,

soreizjo:wa nokosaqsite moraehenaNdade
それ以上は 残させて もらえなかったので

miNna dæ:te maqta huNde jaqpasi sono hæ:—
皆 出して しまった。 それで, やはり, その 配

kju:de tabetekoto omouto hjakusjo:wa naka—
給で 食べて行こうと 思うと, 百姓は なか

naka he:kju:dewa taberarehenaNda
なか 配給では 食べられなかった。

M nani jaqtotano
何を やっていたの?

K huNde okæ: ozo:suiozja 〈A ozijajaqta〉 〔笑〕
それで おかゆ, お雑炊をだね, おじやだった

muŋi gjo:saNja watasiNdokowa ozijajara oke:
麦を たくさんだよ, 私の所は。 おじやや おかゆは

kire:jaqtade muŋibaqka gjo:saN iretena:
嫌いだったから, 麦ばかり たくさん 入れてねー,

hote tabeta
そして 食べた。

A huNna moNzjaqtani
そんな ものだったよ。

K kodomoNta:mo oke:ja ozijaNta taberuno ija—
子供達も おかゆや おじやなど 食べるのは いや

jade muŋihaNbakumesidemo e:de muŋide gjo:—
だから 「麦半白飯でも よいから 麦 たく

saN iretekure ju:ta muŋi gjo:saN iretewa
さん 入れてくれ」 と言った。 麦を たくさん 入れては……

A abura iqto:ka nito: jobuN nokosu sonona:
余分を 一斗か 二斗 余分に 残す, そのねー,

curasaqcjuqte doNdake kuro:site aqcie cjo—
つらさといって, どれだけか 苦労をして, あちらへ 少

boqto koqcie cjoboqto kakuite nito:baka
し　こちらへ　少し　隠して，　二斗ばかり

jobuN kose:runoŋana: Nnamono
余分を　作るのがねー，　そんなもの，

M naNde keNsani kuruno
どうして？　検査に　来るの？

A keNsani kurude Nde hosite ome: tæ:te: naN—
検査に　来るから，　それで，そして　あなた，大てい　「何

daN cukuqtorude doNdake dase:te Ndake
段　作っているから　どれだけ　出せ」といって，それだけ

dasaNto akaheN Nde omahaN nito:ka sokora
出さないと　いけない。　それで　あなた，　二斗か　そこら

kakusunoŋa doNdake omahaN
隠すのが　どれだけ，　あなた。

M huNde dokoe kakusitano
それで　どこへ　隠したの？

A arujo:na hanasiŋa ho:zjanina: huNna saNŋo:—
大ざっぱな　話として，　そうだねー，　そんな，　三合

aqte cjutakate ohjakusjo:zjaqtara saNŋo:—
宛　といっても　お百姓だったら　三合

atede orenjaro huNde ma:
宛では　居られないでしょう。それで　まあ，

K jo: taberudena: hjakusjo:wa
よく　食べるからねー，　百姓は。

A naNzjana nito:baka omahaN jobuN nokosunoŋa
何だね，　二斗ばかり，　あなた，　余分を　残すのが，

dokoe kakuso:kato
どこへ　隠そうかと。

K sorekara mukasiwa ho: ano: asa tabete ohiru
それから　昔は　その，あのー，朝　食べて　お昼に

tabete ocjazukeqcju tabemasitajaro saNzini
食べて　お茶漬というのを　食べたでしょう，　三時に。

〈A nizini〉 hoNde mo: he:kju:ni naqtekara
二時に それで もう, 配給に なってから

tabereNjo:ni naqte maqtaNdesuna:
食べられない様に なって しまったんですよねー。

A Nde mo: saNdozikijaro: horamo: mazui moNde—
それで もう 三度食でしょう, それはもう, まずい 物で

mo
も,

K Nde nakanaka hæ:kju:dakedewana: tarahenaN—
それで, なかなか 配給だけではねー, 足らなかった

daNdesu huNde miNna naNjana oke: tabetari
のです。 それで 皆 何だね おかゆを 食べたり

ozija tabetari
おじやを 食べたり。

M jasaiwa aqtajaro
野菜は あったでしょう。

K hu:N jasaiwa zibuNdokode cukurudena:
フーン, 野菜は 自分の所で 作るからねー。

A jasæ:Ntena so: hara hukurehen naN iqtoru
野菜なんてね, そう 腹が ふくれない。 何を 言っている,

jasæ: jasæ: kore icudemona: gaqkojasumini
「野菜 野菜」と, この子は いつでもねー, 学校の休みに

kitemo jasæ: uN jasæ:baqkade hara hukureke:
来ても 野菜, ウン, 野菜ばかりで 腹が ふくれるかね?

taqta hoNtoni jasæ:kiciŋe:ja
ただ。 本当に 野菜気違いだ。

K hoNdemo e:ni jasæ:wana kusurijade 〈M ne:〉
それでも いいよ, 野菜はね 薬だから。 ネー

jasæ: taberu kodenakerana zjo:buni ne:ŋena—
野菜を 食べる 子でなければ 丈夫では ないそう

dene
だからね。

A naNzja sjaNŋa omahaN 〔笑〕 hoNtoni jasæ:zja
何だか しらないが あなた。 本当に 「野菜野菜」と,

sitocu ju:to hutacumeni
何か 言うと 二言めには。

K imano iNsutaNtobaqkadewa akaNto jasæ: tabe—
今の インスタントばかりでは いけないと, 野菜を 食べ

na
なければ。

A haraguwe:wa i:wana
腹ぐあいは いいよね。

K imano moNwa muŋi tabezu cjoboqto moqte:ne:—
今の 者は 麦を 食べない, 少し, もったいない

deto omoqte muŋiwa kusurijadeto omoqte cjo—
からと 思って, 麦は 薬だからと 思って 少

boqto iretemo bucubucu surutara naNtaraqte
し 入れても, 「ブツブツ する」とか 何とか言って,

iŋa waru naqtataraqtena
「胃が 悪く なった」とか言ってね。

M hoNto watasi muŋi ireteto ju:to ireN iwaq—
本当? 私が 「麦を 入れて」と 言うと 「入れない」と言わ

seru kono sito
れる, この 人。

K muŋiwa ireta ho:ŋana: 〈A cjoqto irenaNna〉
麦は 入れた 方がねー 少し 入れなければ

gohaNmo oisi:si
御飯も おいしいし。

A hjakueNŋa: koqteqtena:
百円分 買ってきてねー。

K huNde watasiN dokomo jo: tamani kaqte kuru—
それで 私の 所も よく, 時たま, 買って くる

kedo hjakueNno hukuro cjoqtomo aNbajo: si—
けれど, 百円分の 袋が 少しも, ぐあいよく なく

maeta koto araheN miNna ijaŋarude jaqpa
なった　事が　ない。　皆　いやがるので　やはり

ireN ho:ŋana
入れない　方がね。

M imawa muŋi kaqte kuruno
今は　麦を　買って　くるの?

A mo: da:remo
もう　誰も。

K ima kjo:sjucu site maudeqsjaro tori orusi—
今は　供出　して　しまうでしょう。　それに鶏が　居るし

na: huNde cjoboqtocucu mukasiwa iqpjo:cu
ねー,　それで　少しずつ。　昔は　一俵ずつ

cuitejana cuite maqte tabetakedona: mo:
ついてだね,　ついて　もらって　食べたけれどねー,　もう

soNnani tabeheNmoN
そんなに　食べないもの。

M muŋi cukurahen
麦は　作らない?

K muŋi cukuqtewa arukedona bi:rumuŋiŋa
麦　作っては　あるけれどね,　ビール麦が。

M a: bi:rumuŋi
あー,　ビール麦。

A mukasiwa niwarikarana: iretaNzjawana miNna
昔は　二割からねー,　入れたんだよね,　みんな。

M imamo ireja i:jaN
今も　入れれば　いいじゃないの?

K ho:ja imamo ireruto i:Njakedona: soreŋa
そうだ,　今も　入れれば　いいんだけれどねー,　それが

akaNŋana: bocubocu suruqtara iŋa waru naq—
だめだがねー。　「ボツボツ　する」とか　「胃が　悪く　なっ

tataraqte 〔笑〕 tabeheNde ze:takuN naqta
た」とか言って　食べないから　ぜいたくに　なった。

A zjakedona: okomedemona: aside cukunoŋa hoN—
だけどねー, お米でもねー 足で つくのが, 本

to asiN darutena: ba:cjaNta kita zibuN oko—
当に 足が だるくてねー, おばあさん達が 来た 頃は 「お米

me cukeqte iwasiŋtara okomeo aside toNko:
を つけ」と 言われたら, お米を 足で トンコー

toNko:to naNŋe: bo: cukete:te cuitajaro
トンコーと 長い 棒 つけておいて ついたでしょう。

hoNtoni ere:mona: kini cukamaqtoqte nakana—
本当に つらいものねー, 木に つかまっていて, なかな

ka
か……

M mo: zibuNde cuita
もう 自分で ついた?

K zibuNde aside cuita 〈M hu:N フーン〉 asinina naŋe:
自分で, 足で ついた。 足にね 長い

ki sono sakini cjo:do kinemite:namoNna he—
木… その 先に 恰度 きねの様なものがね, く

qcuitoru moNjade koqcide humutose:ŋa toNko
っついている ものだから, こちらで 踏むと トンコ

toNko aŋaruNjawa
トンコ 上るんだよ。

A sojaqte miNNa ucide cuitaNja sorekara sui—
そうやって 皆 家で ついたんだ。 それから, 水

sja deqteqtena
車が できてきてね。

M de hucu:wa okomewa muŋito ciŋau jacu are
で, ふつうは お米は? 麦と 違う もの, あれは

cukaheNkane
つかないのかね?

K okome cuitajo
お米は ついたよ。

M okomemo zibuNde cuitano iede
お米も 自分で ついたの？ 家で，

A taberu okome
食べる お米。

K muɰiwa ano zibuN dokode cuitemona ume: ko—
麦は あの 頃 どこで ついてもね， うまく は

to cukeNdena: huNde kurumajade cuite maqta—
つけなくてねー， それで 車屋で ついて もらった

Nja
んだよ。

M iqsjo:biNde okome cuita
一升瓶で お米を ついた？

K soNna zibuNwa ano: seNso:zibuNdesuwana:
そんな 頃は， あの 戦争中の頃ですよねー，

miNna hæ:kju:no sitoɰana: ero: ano: ima
皆 配給の 人がねー， 大変， あのー， 今

terebide jaqte gozaru ohanasaN icumo kamo
テレビで やって いられる おはなさん， いつも かも

iqsjo:biNno nakade cuite gozaru
一升瓶の 中で ついて いられる。

M hu:N soNna koto aqtano
フーン， そんな 事が あったの？

K huN sojaqtena: miNna ho: kuroideqsjaro ku—
フン， そうやってねー， 皆 黒いでしょう， 玄

rome:de moraqtemo sjoNne: moNjade miNna
米で もらっても しょうがない ものだから， 皆

macino sitowa ano iqsjo:biNno nakadena ko—
町の 人は， あの， 一升瓶の 中でね， こ

jaqte cuqcukinahaqtaɰenawana: watasira: hoN—
うやって つっつきなさったそうだよねー。 私等は そん

na koto jaqta koto ne:kedona: 〈A ho:zja〉
な 事を やった 事が ないけれどねー。 そうだよ

k u r o t e m o　j a q p a　s u i s j a d e　c u i t a r i n a N k a　s i m a ー
玄米でも　やはり　水車で　ついたりなんか　しま

s i t a k e d o n a :
したけれどねー。

(4)　天災の思い出

録音日時　1967年3月3日
録音場所　垂井町岩手漆原
浅野ふみえ氏宅

話し手

(略号)	(氏　名)	(性別)	(生　年)	(職業)	(居　住　歴)
K	児玉きぬえ	女	明治32年生	農業	大垣市字柳(0～18) 垂井町岩手漆原(18～)
A	浅野ふじえ	〃	〃 26年生	〃	垂井町府中市尾(0～18) 垂井町岩手漆原(18～)
M	浅野ふみえ	〃	昭和21年生	学生	垂井町岩手漆原(0～)

解説：(イ) 地震のこと(p.68～p.71)
(ロ) 雷・火事のこと(p.71～p.75)
(ハ) 日照りのこと(p.75～p.85)
(ニ) 台風のこと(p.85～p.86)
(附) 米審査のこと(p.86～p.89)

(イ) 地震のこと

M　z i s i N n a N k a　d o :　z i s i N n a N k a
地震なんかは　どう？　地震なんか,

A　z i s i N d e　k u r o : w a　s i t e　k o n a N d a w a
地震で　苦労は　して　こなかったよ。

K zisiNde kuro:wa
地震で 苦労は。

A na: 〔笑〕 kodomono zibuNniwa
ねー, 子供の 頃には

K to:kjo:siNsai to:kjo: kaNto:siNsaina: koto-
東京震災, 東京, 関東震災の様な 事

wa ne:wana kokoraheNwa
は ないよね, ここら辺は。

M hu:N
フーン。

A ucini oru zibuNwana jabuNnakani netani
家に 居る 頃はね, 藪の中で ねたけれど。

K uN ho:ja watasiramo ucini oru zibuNna kado-
ウン, そうだ。 私等も 家に 居る 頃はね, かど

de
で。

M ucini oru zibuN iqte koqcie ojomeni kuru
家に 居る 頃と というのは ここへ お嫁に 来る

mae 〈K e: 〉 hu:N icuŋoro mada
前? えー, フーン, いつ頃? まだ……

A icuqcju: koto na:sini isuqtorudena:
いつという 事 なしに, 揺すっているからねー。

K icuqte koto nasina: zisiN jusuqtade 〈A isu-
いつという 事 なしにねー, 地震が ゆすったから。 ゆす

qtorudena: 〉
っているからねー

M na:Nde
どうして?

A are nacuzjaqtana:
あれは 夏だったねー。

K nacuzjaqtawana:
夏だったよねー。

A uN atasiNta ke:ko ko:toruzjaro ke:ko ko:te—
ウン, 私達は 蚕を 飼っているでしょう。 蚕を 飼って

na: ome: kuwasetoru ma:demo isuqtena: ore—
ねー, あなた, 食べさせている 間でも ゆすってねー, 居られ

henaNdade jabu maeno jabunakani netaNna
なかったから, 藪, 前の 藪の中で ねたよね,

josaridemo
夜中でも。

M nani ho:nani isuqtano
何, そんなに ゆすったの?

K watasira:mo maeno hataken nakadena: kaja
私等も 前の 畑の 中でねー, かやを

cuqte nacuzjaqtasina: kaja cuqte neta koto
釣って, 夏だったしねー。 かやを つって ねた 事が

aruwa
あるよ。

A uN juqsurito:te ke:kodemo koNna moNdaqtana:
ウン, ゆすり通して, 蚕でも こんな位の ものだったねー。

tana abuno:te orehendade hunde watasira
棚が 危くて 居られなかったから, それで 私等は

jabuN nakade neta: josari
藪の 中で ねた, 夜中に。

K hirunaNkawa hontoni isuritœ:tadena: asa
昼なんかは 本当に ゆすり通したからねー, 朝,

are asaŋa hazimarijaqtawana:
あれは 朝の 始まりだったよねー。

M huN hode koqcie kitekarawa mo: are
フン, それで こちらへ 来てからは もう あれ?

K koqcie kitekarawa: are: ano tokja: to:kjo:—
こちらへ 来てからは あれ。 あの 時は 東京

no siNsæ:no aqta tokijaqtakana: isuqtano
の 震災の あった 時だったかねー。 ゆすったのは。

〈M hu:N フーン〉 hidokaqtanowa oboeN ne:wa watasimo
ひどかったのは 覚えが ないよ, 私も。

M honde
それで?

A koqcie kitekara jo: sotode neNnaraN jo:na
こちらへ 来てから よく 外で ねなければならない 様な

koto
事は。

K sotode neNnaraN kotowa nakaqtawana:
外で ねなければならない様な 事は なかったよねー。

M hu:N
フーン。

K watasirawana jo: eNŋawade nete mo: imademo
私等はね, よく 縁側で ねて, もう 今でも

suN derareru jo:nina: eNŋawade neta koto
すぐ 出られる 様にねー, 縁側で ねた 事が

aqtakedona: ucini oru tokiniwa koqci kite-
あったけれどねー, 家に 居る 時には。 こちらへ 来て

kara honNna o:zisiN isuqta koto ne:na:
から そんな 大地震が ゆすった 事は ないねー。

(ロ) 雷・火事のこと

M hu:N huNnara kaminariwa 〈K kaq カッ〉 〔笑〕 kami-
フーン, それでは 雷は? 雷

nariwa kowaijaro watasi kowaikedo kaminari-
は 恐しいでよう? 私は 恐しいけれど, 雷

toka kazitoka kazitoka aqta
とか 火事とか, 火事など あった?

K kazimo urusiharawa ne:wana: icujara kohaq-
火事も 漆原は ないよねー。 いつか コハチさん

caN dokoŋa cjoqto jaketana:
(人名)の 所が 少し 焼けたねー。

A ore:saN dokojaNna:
お礼さんの 所だよねー。

M ore:saN toko
お礼さんの 所?

A hataja moetana: hataŋoja
機屋が もえたねー, 機小屋が。

M hona sono toki do: sita huNnara
それでは その 時 どう した? それなら,

A do:mo sjoqke:na: do:mo miNna kujamini goza-
どうも するものかねー, どうも。 皆 お悔みに 来ら

rudena: uci akerareseNŋa:
れるのでねー, 家を 空けられないがね。

M na: na:Nde
ナー, どうして?

A Nde ziqsaNtadake deteqte uciniwa dazo kaN-
それで, おじいさん等だけ 出て行って, 家には 誰か 彼

zo orana kujamini gozarude
か 居なければ, お悔みに いらっしゃるから。

M hi:kesini ikaheNno
火を消しに 行かないの?

A siNsekiwa koN kitemo koidemo i:kedo josono
親せきは 来ない。 来ても 来なくても よいけれど, よその,

ano sitoŋa kujamini gozarude uci akete ieni
あの, 人が お悔みに いらっしゃるから, 家を 空けては, (家に)

oreheNwana: kaziN naruto cjaNto ucini ora-
居られないよねー。 火事に なると ちゃんと 家に 居な

naraN
ければならない。

M huːN
フーン。

A iwademurade iwademurano sito mina gozarude−
岩手村で, 岩手村の 人が 皆 来られるから

na: iqkeN iqkeN arukaqserude
ねー, 一軒 一軒 歩かれるから。

M Nde kazitoka so: ju: monomo aNmari kuro:
それで, 火事とか そう いう ものも 余り 苦労は

sitoraNne:
していないねー。

M so: ju: kotojane:
そう いう 事だよねー。

K so: ju: kotoniwana: ano: are jaketa tokini
そう いう 事にはねー, あのー, あれ, 焼けた 時に

miNna are poNpu hi:te iqta miNna otokono
皆が, あれ, ポンプを ひいて 行った。 皆 男の

sitowa usaɲiɲaridena: miNna jame: iqte maq−
人は 兎狩りでねー, 皆 山へ 行って しまっ

toqtadeqsjaro 〈A sjo:ko:zijame: iqte maqto−
ていたでしょう。 ショーコー寺山へ 行って しまって

qtaN〉 hu:de onaɲobaqka jaqtakedona:
いたの〉 それで 女ばかり だったけれどねー。

M huNde do: sitano
それで どう したの?

K miNna poNpu hi:te hasiqta 〈A hasiqtena: ko−
皆 ポンプを ひいて 走った。 走ってねー, こ

no suɲu hiɲasija〉 hositara miNna jamakara
の すぐ 東の方だよ〉 そうすると 皆 山から

orite gozaqtadena: miNna asokomade araæ:made
降りて こられたのでねー, 皆 あそこまで, 新井(地名)まで

moqteqtekara otokono sitoNta:
持って行ってから, 男の 人達が。

A watasiNta kibaqte ka: jaqte osite jaqtoru−
私達は がんばって こう やって 押して やっている

noni otokono sitoN urusiwara kitoraNto ke—
のに, 男の 人達は 漆原へ 来ていないで ケ

ro:Nto maeno ho:dena mitoqtajaro huNde ba:—
ローンと 前の 方でね, 見ていたでしょう。 それで 婆

cjaN okoqtena: nani jaqtoru kono urusiwarade
さんが 怒ってねー, 「何を やっている, この 漆原で」……

ke:sacudese: kono oNnabaqkana: ano sjo:bo:—
警察でさへ 「この 女ばかりでねー, あの, 消防夫

hu jaqtorujo:na moN dokozja cju:te kikasi—
を やっている様な のは 何処だ」 と言って 聞かれ

tajaro huNde ba:cjaN urusihara kono nisino
たでしょう。 それで 婆さんが 「漆原, この 西の

urusihara cju: tokodesu cjuqte oba:cjaN
漆原, という 所です」 と言って, お婆さんが

ju:taNzja hositara jo: kibaqte kureta cju:—
言ったんだよ。 そうすると 「よく がんばって くれた」 と言っ

te hosite ome:
て, そして あなた。

M hu:N
フーン。

A re: iwasitawa onaɲobaqkade jaqta
お礼を 言われたよ。 女ばかりで やった。

M hu:N onaɲobaqkadena:
フーン, 女ばかりでねー。

A otoko kero:Nto site mitoruno
男は ケローンと して 見ているの。

M hoNnara otokono sito nani mitoqta
それでは 男の 人は 何を 見ていたの?

K ho:ja miNna jame: iqte gozaqta moNde usaɲi—
そうだ, 皆 山へ 行って いられた ので, 兎

ɲaridena 〈M hu:N〉
狩りでね。 フーン

K huNde jamakara oriteqte
それで 山から 降りてきて。

A imawa mo: usaŋiŋariqte arahaNdena hajo:wa
今は もう 兎狩りって 無いからね。 以前は

mo: naNke:ka hujuucini aqtadena
もう 何回か 冬の間に あったからね。

M usaŋiŋarini iqtano usaŋi soNnani oqta
兎狩りに 行ったの? 兎は そんなに 居た?

K oqtaka siraN miNna otokono sitoNta ikasita
居たのか しら, 皆 男の 人達は 行きなさった,

jame: otokono sito oraN mona: onaŋoNta:
山へ。 男の 人は 居ない のでねー, 女の人達は……

(ハ) 日照りのこと

M hu:N nara taNbo hideriqte arujaro taNbo
フーン, そんなら 田んぼの 日照りって あるでしょう? 田んぼ,

K hora hideriwa aqtawana: are naNneN sjo:wa
それは, 日照りは あったよねー。 あれは 何年, 昭和

naNneNŋorojaqtajaro hideri monosuŋe: atasi-
何年頃だったか, 日照り, ものすごい。 私達

ra: hiciŋacu zju:gonicimade ta: e:ta koto
は 七月 十五日まで 田を 植えた 事が

aqta 〈A u:N u:N〉 are naNneNŋorojaqtakasiraN
あった。 〈 ウーン ウーン〉 あれは 何年頃だったかしら。

A naNneNjaqtajaqtasiraNna: jonabeni tokimizu-
何年だったかしらねー, 夜なべに 時水

de naNzjana taNbo sitaNzjana:
で, 何だね, 田んぼの仕事を, したんだよねー。

K tokimizude miNna kone:tena: hosite ta: ue-
時水で 皆 (土を)こなしてねー, そして 田を 植え

taNja watasira: iqpoNɸino ano: taNbo koko-
たんだよ。 私等は 一本木の, あの。 田んぼ, 九

nose ikuraqte jacuni saːNbeNka siheNka ga-
畝 余りという 田に, 三度か 四度か, たく

haN kakaqte
さん かかって。

A uːN moː iqso mame uejoka siraNto omoqtenaː
ウーン, もう いつそ 豆を 植えようか しらと 思ってねー,

kaNkoː sitoqtaNjakedo tokimizude sitosimacu
くふう していたんだけれど, 時水で ーしまずつ

sitosimacu atasi kono jasikida uerusinaː
ーしまずつ, 私は この 屋敷田を 植えるしねー,

koneːteqtaNzja
こなしていったんだよ。

K saNna hiciɸacuno zjuːgoNcimade taː ueta
そう, 七月の 十五日まで 田を 植えた。

naNsjoː watasi hideono ciːseː tokijade naN-
何しろ 私, 英男の 小さい 時だから 何

neN greːqta sjaN sjoːwa zjuːjoneNni umarete
年 位だった かしら。 昭和 十四年に 生まれて,

sicineNka zjuːsicineNka sokorajaqtarokanaː
七年か 十七年か, それ位だったろうかねー,

zjuːsicineNka zjuːhacineNjaqtakasiraN
十七年か 十八年だったかしら。

A imaːwa soː oːhideriqte neːdenaː 〈K uːN ウーン〉
今は そんなに 大日照りって ないからねー,

oːhiderizjato doqkani teːmacu aɸaqtakedona
大日照りの時は どこかに たいまつが 上ったけれどね,

imawa soNna oːhideriwa neːwanaː iwasakisaN-
今は そんな 大日照りは ないよねー 岩崎さん(神社)

de omeːsaN oːhideri sita tokini zuzukuɸuri
で, お前さん, 大日照り した 時に 数珠くぐり,

〈K zuzukuri 数珠くり〉 zuzukuritaraqte 数珠くりとかって 〈M zuzukuri ズズクリ？〉

u:N so:najaqtawana
ウーン, そんなだったよね。

K ano odoqtaN
あの, 踊ったの。

M odoqtaNka
踊ったのか？

K huNde o:ki: zuzuona: miNna wa: naqtena kuq-
それで, 大きい 数珠をねー, 皆 輪に なってね, くっ

tano hoqte 〈A te:saNzide テーサン寺で〉 te:saNzideka do-
たの。 そして, テーサン寺でか ど

kodejaqta sjaN
こでだった かしら。

A hjakumaNdara kuqtano
百マンダラ くったの。

M hoNnara ame huqta 〔笑〕
そしたら 雨 降った？

A zuzuna: koNna kure:no tamaNna miNna wanani
数珠をねー, こんな 位の 珠のね, 皆 わなに

sitene hjakumaNdara iqte kuŋuruNzja ko: jaq-
してね, 百マンダラ 言って くぐるんだよ。 こう やっ

te hoqte kona kure:no tama kuqte:na dæ:te:-
て, そして この 位の 珠を くってね, 大体

wa ko jaqte na:maNdabu na:maNdaqte huqte
は こう やって, 「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」って。 降って,

cjaNtona huqtarina:
ちゃんとね, 降ったりねー。

M huqta huqtano
降った？ 降ったの？

A cjoboqtoka hurahеN iwasakisaNdena mata aN
少ししか 降らない。 岩崎さんでね,(神社) 又 あの

naNzjana miNnaNna warazigakede soNna zibuN
何だね, 皆ね, 草鞋がけで, そんな 時分

daremo zikatabiNja naNja waraNzi he:te o:—
誰も 地下足袋や 何か, 草鞋を はいて, 大

kina koNna kure:no ze:hare:qtena: simomaci
きい こんな 位の といってねー, 下町の

te:kosaN naNdo ko:Nna kure:no waraziqte
妙子さん などは こんな 位の 草鞋はいて,

o:dæ:kodena so: jaqte miNna oma:N siNgaN
大太鼓でね, そう やって 皆 あなた, 心願を

kaketaNjana: soNna kure:daqtaNna
かけたんだよねー, そんな 位だったんだね。

K na u:rimo nasubimo korokoroja ju:tena:
ね, 「瓜も 茄子も コロコロだ」と 言ってねー。

〈M korokro〉 huN hideridena 〈M hu:N〉 u:rimo
コロコロ? フン, 日照りでね, フーン 瓜も,

〈M a: so:ka〉
あー そうか

A uN a:me: ciqto okureNka cjuqte 〈M hu:N〉
ウン, 「雨を 少し 下さい」 と言って。 フーン

so:ja u:rimo na:subimo ko:rokoroqcjuqtena
そうだ, 「瓜も 茄子も コーロコロ」と言ってね。

hoqtewa tæ:ko o:kina o:dæ:kona taNno sitoga
そして 太鼓, 大きい 大太鼓ね, 谷の 人が

kumaqta dede:N dede:Ntona osano o:de:ko
くまれた。 デデーン デデーンとね。 表佐(地名)の 大太鼓

cju:kedo moqto iqke: o:de:ko sitena hoqte
というけれど, もっと 大きい 大太鼓 でね, そして

jarasita koNna kure:no de:wa de:te sa:tena
やりなさった。 こんな 位の そうしてね,

sore miNna uta arude uta jaqtena
それは 皆 歌が あるから 歌を 歌ってね。

M hu:Nde okome miNna karete maujaro
それで, お米は 皆 枯れて しまうでしょう?

K karete maqtakedona: hiciŋacu icudemo roku-
枯れて しまったけれどねー。 七月, いつでも 六

ŋacuno suenina: uete maunoni sono tosiwa
月の 末にねー, 植えて しまうのに, その 年は

hiciŋacu zju:goNcimade uetakedona
七月 十五日まで 植えたけれどね。

M nanio 〈A huN〉
何を? フン

K okome ta:ue 〈A ta:ue:〉
お米。 田植。 田植

M ta:ueo sitano a mizuŋa nakaqtade hu:N
田植えを したの? アー, 水が なかったので? フーン,

K mizuŋa nakaqtadena cjoboqtozucu tokimizude
水が なかったのでね, 少しずつ 時水で

kone:tewa hoqte ueteqtaNja 〈M uN〉 Nde Nde-
こなしては, そして 植えていったんだよ。 ウン それで, それで

mo warie:to sono tosiwa naaqtano
も, 割合に その 年はね, あったの。

M a okomewa aqtano
アー, お米は あったの?

K aqta 〈M hu:N〉 hideqte oso: uetakedona:
あった。 フーン 日照りで おそく 植えたけれどねー。

hoNde wase ueta sitowa akanaNdakedona oku-
それで 早稲を 植えた 人は だめだったけれどね, 晩稲

wa jokaqta 〈M hu:N wase ueta sitowa do:〉
は よかった。 フーン, 早稲を 植えた 人は どう?

joke torenaNda 〈M huN〉
たくさんは とれなかった。 フン

A cjobo:Ntoka torehenN kaqtemo mœ:temo i: ku-
少ししか とれない。 刈っても 燃やしても よい 位

re:no moNzjaqta
の　ものだった。

M huN naNde hoNnara okuteno sitowa
フン，どうして？　それでは　晩稲の　人は？

K hora sono sitono aNbe:dena jaqpasi okute
それは　その　人の　つごうでね，　やはり　晩稲を

ierujo:to omoqte ieta sitomo arusi waseno
植えようと　思って　植えた　人も　あるし，　早稲の

ho:ŋa e:to omoqte ieta sitomo aruNjawana
方が　よいと　思って　植えた　人も　あるんだよね。

M hu:N a: ueru tokiwa oNnasini uetakedo
フーン，アー，植える　時は　同じ様に　うえたけれど？

K hu:N so:so: ueru tokiwa hora miNnaN me:me:—
フーン，そうそう，　うえる　時は，　それは，　皆　それぞれ

jawana hiderino tokijade hu:N huNde miNna
だよね，　日照りの　時だから。　フーン，それで　皆

cjoboqtocucu tokimizudena 〈M hu:N〉 kone:—
少しずつ　時水でね，　フーン　こなし

tewa ieteqtaNjana huNde oqki: taNbojato
ては　うえていったんだよね。　それで　大きい　田んぼだと，

saNbeNmo siheNmoni ietaNjade 〈M hu:N〉
三回も　四回もかかって　うえたんだよ。　フーン

A imawa hacudo:kide da:qto mizu aŋetena ra:ku
今は　発動機で　ダーッと　水を　上げてね，　楽を

suruwana: mukasiwa curubede doqka:N a doq—
するよねー。　昔は　釣瓶で　「ドッカーン，ア，ドッ

bo: doqka:Nko te ko: jaqtena: koNdakebaka no
ボー，ドッカーンコ」　って，こう　やってねー，　之だけ位の

okedena ha gosjo:ka gosjo:bakazucu he:ru
桶でね，　八，五升か，　五升ばかりずつ　入る

okedena ano
桶でね，　あの……

K gi:dobon gi:dobon
ギードボン ギードボン。

A gi:doqbo:nko usirode hoto nawahikizja a
ギードッボーンコ, 後で, そうすると, 縄引きだよ。「ア

jo:ijoiqtena 〔笑〕 aŋuruikini usirode nawa
ヨーイヨイ」といってね, 上げる時に, 後で 縄を

hiqparuNzjana hoto ta:qto taNboe kurude
引っぱるんだね。 そうすると, タッと 田んぼへ 来るから,

mata gi:qte jo:icjoqto usirode cunahikiqte
又 ギーといって, 「ヨーイショ」っと 後で 綱引きして。

hu:Ntonina: okome sitocubo huNna moNzjaqta
本当にねー, お米 一粒, そんな ものだった。

imawa hacudo:kide inehikise sja soNde i:de
今は 発動機で 稲引きさえ すれば それで よいから,

toqto toqtoto sitori aŋaqtoruzjaro uciata-
トット トットと ひとりでに 上っているでしょう。 家等

ridemo u:Nna mo haN ba:cjaNtademo ka:radade
でも そんな もの, ハン, 婆さん達でも 河原田で。

hote mada sono æ:dani tokimizuhikini hasi-
そして, まだ その 間に 時水引きに 走ら

raNnaraNsina: heqte idode da:remo curube
なければならないしねー。 そして, 井戸で 誰も 釣瓶の

usiromo hiqpaqte kurehеN ome:ra gaqko:e
後も ひっぱって くれない, お前らは 学校へ

iqtoqtade sosite ome: ba:cjaN sitori na:NŋGi
行っていたので。 そして お前, 婆さん(自分) 一人が 難儀を

site ko:jaqte doqpo:N
して, こうやって ドッポーン……

M watasi umaretorahеNne maNda
私は 生まれていないね, まだ。

K umaretorahеNjaro: maNda curubede kuNda jona
生まれていないだろう, まだ。 釣瓶で 汲んだ 様な

koto araheNjaro
事は　ないだろう。

A　na:ni kono kowa ma:
いーえ，　この　子は　まー。

M　umaretoraheNjo watasi
生まれていないよ，　私は。

A　u:N ba:cjaNta
ウーン，婆さん（自分）達は……

K　a: ka:rade: kakeni iqta zibuN umaretorahe—
アー，河原田へ　かけに　行った　頃は　生まれていな

naNda ka:radade kaetawana ka:radaN tokini
かった。　河原田で　かえたよね。　河原田の　時に，

asokono saNme:de kaetawana
あそこの　墓場で　かえたよね。

A　saNme: josarina nizika saNzininа: tokimizu
墓場，　夜中にね，　二時か　三時にねー，　時水

aqta atona: hoqto soede ano hasino sitadena:
そうすると，それで　あの　橋の　下でねー，

bakecude cjoqpo:N de doNna gre: kakaqtasi—
バケツで　チョッポーン…　それで，どの　位　かかったかしらと

jaNto simono ho:no taNbo tatami nizjo:baka—
（思うと）　下の　方の　田んぼに，　畳　二畳ばかり

zucu mizu kakaqtoqta huNna moNzjaqtana hu—
ずつ　水が　かかっていた。　そんな　ものだったね。　そん

na kure: hideqtamona: 〈M hu:N〉 tokimizuni
な　位　日照りがしたものねー。　〈フーン〉　時水に，

sono zikaNdake zibuNno
その　時間だけ，　じぶんの……

K　ano saNme:no ano kure: tokoe kakeni ikuno
あの　墓場の，　あの　暗い　所へ　かけに　行くのは

ijazjaqtawa watasiwa 〈A huNtoni〉 na: saN—
いやだったよ，　私は。　〈本当に。〉　ねー，　墓場

me:nona: maqkurokeno tokode kaetaNjaŋana:
のね, まっくらな 所で かけたんだよねー。

tokimizu kurutose:ŋana: nizika saNzi
時水が 来るとねー, 二時か 三時頃(午前)に。

huqtose:ŋa cuŋo: waruito kurujaro huqto
そうすると, つごうが 悪いと, 来るでしょう。 そうすると,

sokoe kake ano kaeni ikuNjaŋana: tokimizuto
そこへ かけ, あの かけに 行くんだがねー, 時水と

iqsjonina: hosœ: moNjade mizuŋa mizudakede-
一緒にねー。 細い ものだから, 水が, 水だけで

wana: medono mizudake hosœ: moNjade huNde
はねー, 溝の 水だけ 細い ものだから, それで,

ano kaeba kaketaqtadena: miNna:
あの, カエバを かけてやったのでねー, 皆。

M kaeba ju:te:
カエバと いうのは?

K mizu kaeru jacu
水を かえる もの。

A ba:cjaN ima ju:ta
お婆さんが 今 言った。……

K sokoe hoNde kaeni iqtaNjana zikaNna kuruma-
そこへ, それで, かえに 行ったんだよね, 時間が くるま

de
で。

A huNde hasino sitade dojoNdorude soicuna
それで, 橋の 下で よどんでいるから, それをね,

bakecude kumiaŋete
バケツで 汲み上げて。

K maqkurokejanoni saNmuinina: ／M sitoride
まっくらだのに, 寒いのにねー, 一人で

ikuno＼ a: aN otokono sitoto hutari iqtaN-
行くの? ／ アー, あの, 男の 人と 二人で 行った

ja 〈M hu:N〉
の。 〈フーン。〉

A otokowa simono ho:de omaN doqpoNko jaruzja:
男は 下の 方で, お前さん,「ドッポンコ」と やるの。

onaɸowa hasino sitano do:joNda mizude omaN
女は 橋の 下の よどんだ 水で, お前さん,

ko: jaqte hoqte simono ho:no iqpoNɸimade
こう やって。 そして, 下の 方の 一本木まで,

taNbona doNnakure:na: mizu mawaqtasijaNto
田んぼのね, どの位ね, 水が まわったかしらと

moqte miniku tatamina: nizjo:bakazucu mina-
思って 見に行くと, 畳ねー 二畳ばかりずつ

kute pa:to mizu uqtoNno honamoNzjawa 〈M hu:-
水が そんなものだよ。 フー

N〉 hoNtozjana na:NɸI site kita 〈K ho:Nzja〉
ン〉 本当だね, 難儀を して きた。 〈そうだ〉

A tadosaNmacurino tokizja ano heNzjana:
多度さん(神社名)祭の 時だよ。 あの 頃だよねー。

K uN ano heNzjasa
ウン, あの 頃さ。

A joqka 〈M hu:N〉 joqka sono maekarana: tado-
四日, 〈フーン〉 四日, その 前からねー, 多度

saNmacurikaqteqte toromacuri mini iqtoruno-
さん祭といっても, (他の人は)燈籠祭を 見に 行っているの

ni doqbo:Nko dobo:Nkoto nizikaNbakazucu
に, ドッボーンコ ドボーンコと, 二時間ばかりずつ

jaqte kuruNzjana: tatamini
やって くるんだよねー。 畳に……

K huNtoni ano jo:sari maqkurokeni ikunowa
本当に, あの 夜中 真暗な時に 行くのは

ijazjaqtawa watasimo jonakani nizika icizi-
いやだったよ。 私も 夜中に 二時か 一時

ka niziŋoro ikuno iciban ijajaqta
か, 二時頃 行くのが 一番 いやだった。

A huNtoni simokawano jo:ni mizuŋa takusaNna—
本当に, 下川(田の名)の 様に 水が たくさんな

rana: rakuikedo kore jamaŋa cju: monowa mi—
らねー, 楽だけれど, これ, 山家 という ものは 水

zuŋa tasine:de 〈M hu:N〉 na:NŋI site kitaN—
が 乏しいから, フーン 難儀を して きたん

da: mukasino koto ju:to jo: ikitoru cju:na
だよ。 昔の 事を 言うと, よく 生きている という様な

monjana:
ものだねー。

(ニ) 台風のこと

M honara taihu:mo kurujaro:
それでは, 台風も 来るでしょう。

K huN tæ:hu:mo kuruwana: hora
フン, 台風も くるよねー それは。

M hidokaqta kokorahenwa
ひどかった? ここらへんは,

K huN kokorahenwana: tæ:hu: kitemo warie:tona
フン, ここら辺はねー, 台風が きても, 割合とね。

huN icudemo iqkura tæ:hu: kitemo kome toreN
フン, いつでも, いくら 台風が きても, 米が とれない

cjutakate watasi kitekarawa roqpjo:jori
と言っても, 私が 嫁にきてからは 六俵より

ikawa toreta koto nakaqtakedona: 〈M hu:N〉
以下は とれた 事が なかったけれどねー。 フーン

kjoneNka ototosikana monosuŋe: nakaqtanowa
去年か 一昨年かね, ものすごく 無かった(少なかった)のは。

ototosja
—昨年だ。

A sono ucino sitoni joqtena: tarosaNmacurizi—
その 家の 人に よってねー。 多度さん祭の時

buNniwa kuŋacuno joqka miqka zibuNni icude—
分には, 九月の 四日か 三日の 時分に, いつで

mona: kuruNzjaŋa ma: aotade da:to aodatami
もねー, 台風がくるんだが, マー 青田で 一面に 青畳を

hi:taN soNdemo kome ne: cju: kota: araheN—
敷いた様に。 それでも, 米が ない という 事は ない

na: na:ŋiwa suqkedona:
ねー。 難儀は するけれどねー。

K na:NŋiwA suruna jaqpa doqcika teja: ciqtoba—
難儀は するよね やはり。 どちらかと 言えば, 少し

ka hideqta ho:ŋa kome okomewa joke toreru—
位 日照りの した方が 米, お米は たくさん とれる

wana 〈M hu:N〉 aNmari huruto jaqpasina ku—
よね。 〈フーン〉 余り 降ると やはりね, 糜

saqtari naNka suru
ったり なんか する。

(附) 米審査のこと

A huNde ba:cjaN jo: maeni okome sitocubodemo
それで, 婆ちゃん(自分の事)は, よく 以前に 「お米 一粒でも

dæ:zini site tabete kure:jo cju:te 〔笑〕
大事に して 食べて くれよ」 と言って,

hoNtoni toru miN naqtona: nakanaka okome
本当に とる 身に なるとねー, なかなか お米

sitocubodemona: 〈M huN〉 uN nakanakazjade
一粒でもねー, 〈フン〉 ウン, なかなかだから。

huna ke:saNme:zjatote mina arɸ: nakanaka
そんな, だといって, 皆, あれは なかなか。

ke: so:koe moqteqtena: nito:zja naNzjaqte
ケー, 倉庫へ 持って行ってねー, 二等だとか 何だといって,

nakanaka uqte moraeN ucide joqpodo seNbecu
なかなか うって もらえない。 家で 余程 より分けを

sitekanana: nito: moraeheNzjaro 〈M huN フン〉
して行かなければねー, 二等が もらえないだろう。

naNzja dadakusani site joNto:na: ahokuse:—
何だよ, がさつに して, 四等ねー, ばかばかしい

ŋana irija kakete keqte kirareN mo: harie:
がね 帰って 来られない。 もう はりあいが

no:te
なくて。

M harie: no:te
はりあいが なくて?

A uN nito:zjato ha jokaqta cjuqtena: moro
ウン, 二等の場合は 「ハ, よかった」 と言ってねー, モロ,

kakicuke morote keqte kurukedo jo:Nto:zjate
書きつけを もらって 帰って くるけれど, 四等の場合は,

oNnasi jo:ni ohjakusjo: site hosite ome:
同じ 様に お百姓仕事を して, そして あなた,

joNto:ka torenaNde ahokusote sja:araheN
四等しか とれなくて, ばからしくって しょうがない。

ho:ja joNto:no ho:ŋa i:Nzjakedo buwariwa
そうだ, 四等の 方が よいのだけれど, 歩割りは。

ho:ja buwariwana: seNbecu so: se:demo kuzu—
そうだ。 歩割りはねー。 より分けを そんなに しなくても, 屑米

me: horikoNde kurude e:kedona: i:kedomo
を ほりこんで ゆくので よいけれどねー。 よいけれど,

sore jaqpa to:kju: i:tose:ŋa kao e:zjaro
それは やはり, 等級が よいと 顔が よいでしょう

M kaoŋa i:no 〔笑〕
顔が よいの?

A huNtozjano oNnasi jo:ni naNŋi site huNde
ほんとにね, 同じ 様に 難儀を して, それでも,

jaqpa seNbecu surude huNde nito: toqte ku-
やはり, より分けを するから, それで, 二等を とって く

ruto iqke: kao site keqte kuru uNde eNmasa-
ると, 大きな 顔を して 帰って くる。 それで えんまさ

Nzjazo komesiNsawana: 〈M huːN フーン〉 hoNtoni
んだよ, 米審査はねー。 本当に,

omeNtademo gaqko:de sikeN jaru jo:na moNde-
お前達でも, 学校で 試験を する 様な もので

na: eNmasaNzja ohjakusjo:no 〈M uN ウン〉 uN ano
ねー, えんまさんだよ, お百姓の。 ウン, あの

komesiNsaNdakeŋa icibaN ohjakusjo:de ijaz-
米審査だけが 一番 お百姓にとって いやで

jane:kana me:kata no:temo akaNsi o:suŋiru-
はないかな。 目方が 足りなくても だめだし, 多すぎる

nomo iraN koqcja 〈K iraN koqcjasi〉 uN hoq-
のも 余分の 事だ。 余分の 事だし ウン, そし

te ome: o:ze: kakaqte komeNna miNna tenohi-
て あなた, 大勢 かかって 米をね, 皆 てのひ

ræ: nosete ko jaqte kiciNto saqseru tæ:te:
らへ のせて, こう やって きちんと しなさる。 よいかげん

cure: koqcjawa 〔笑〕 〈M huːN フーン〉 hoːNcjuːte
つらい 事だよ。 本当を言って,

kaːcjaN huNde icudemo ijaŋarugaja toːcjaN
母さんは, それで いつでも いやがるじゃないかね, 父さんは

ikinaharahe Nde
行きなさらないので。

K a: hoːNtoja hoNtoni komeŋeːnowa ijajadena
アー 本当だ。 本当に いやだからね。

A ijazjawana: onaŋobaqkazjakedo hoNtoni ijana
いやだよねー, 女の人ばかりだけれど, 本当に いやな

moNzja
ものだよ。

K mo: ukaqte mauto jarejareto omou
もう, うかって しまうと, やれやれと 思う。

A u:N uN huNtoni hotokesaN oŋamaNnaraN 〔笑〕
ウーン ウン, 本当に 仏さんを 拝まなければならない,

a jarejare suNmasita cjute 〈K ho:zja〉 uN
「アー, やれやれ 済みました」 と言って。 そうだ ウン,

soNna moNzjani: sono mici hæ:rutona:
そんな ものだよねー, その 道へ 入るとねー。

K sono mici hæ:rutona: na:Ndemo oNnasi koto
その 道へ 入るとねー, 何でも 同じ 事,

gaqko:demo sikeNŋa ukaruto jarejare
学校でも 試験が うかると やれやれ。

A u:N uN jarejareto mo:
ウーン ウン, やれやれと 思う。

非　売　品

１９６８年３月

国立国語研究所　話しことば研究室　発行

東京都北区稲付西山町